「令和 3 年度スポーツによる地域の価値向上プロジェクト」

別添資料１．武道ツーリズム取組事例集

目次

1．施設（道場）主体の取組事例
日本総合武術研究会（北海道札幌市）…… 4
静仙洞ユーアイ弓道場（埼玉県秩父市）……11
武蔵一族（東京都港区）……17
公益財団法人合気会　合気道本部道場（東京都新宿区）……23
弓馬術礼法小笠原教場（東京都世田谷区）……30
戸山流備前会（東京都町田市）……36
武修館剣道場（静岡県三島市）……46
合気道萬葉塾（奈良県橿原市）……51
川上村武道場（奈良県川上村）……57
合気道田辺道場（和歌山県田辺市）……66
公益財団法人修武館（兵庫県伊丹市）……71
錬志会館（福岡県糟屋郡須恵町）……80
赤嶺空手道場（沖縄県豊見城市）……85
琉翔会総本部（沖縄県豊見城市）……91

2．地域における取組事例
山形県村山市……97
沖縄県
沖縄県空手振興課…… 107
一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（OCVB）…… 112
沖縄空手会館…… 119
Ageshio Japan（アゲシオジャパン）株式会社…… 124

１．施設（道場）主体の取組事例

日本総合武術研究会

【施設概要】

体験可能な武道	棒術、座弓、槍術、刀法、柔術、杖術、手裏剣　等
所在地	北海道札幌市南区真駒内 165-197
ホームページ	http://nihonsogobujutukenkyukai.web.fc2.com/
外国人受入実績	・会長が海外で武道の指導をした際に、日本でも会長の指導を受けたいと希望した外国人を受け入れたことをきっかけとして、欧米人を中心に多数の受入。

【外観】

【内観】

【各種武具】

【1. 外国人受入当初について】

■外国人の受入開始時期
・1981 年より受け入れている。
■背景
・会長の弟子（日本人）がフィンランドにいたのだが、その際にできた縁で 1981 年頃よりフィンランド人 2 名が 1 年間日本に来て会長の指導を受けるために来日、札幌市なにで指導をした。 その後、彼らが母国に帰って空手の指導をするようになった。 日本から指導者を派遣してほしいという話になり、会長の弟子が 3 年間空手など武術を指導した。 その後、平成 3 年に会長が定年（自衛隊）と同時にフィンランド空手連盟から招聘を受け、会長もフィンランドに行くことになった。 フィンランドには他国の人も稽古に来るようになった、その人たちの中ロシア人 3 人が日本に来て当館で教えることとなった。 ・こうした個人での付き合いによる申し込みが大半の中知り合いの旅行会社のツーリズムでタイ人を一度受け入れたことがある。 ＜その他（国際親善演武会の主催）＞ ・2001 年に国内（札幌市メディアホール・スピカ）で当会主催の国際親善演武会を道、市及びいろいろな企業の援助を受けて初めて実施した。11 か国が参加した。 ・2015 年第 2 回国際親善演武会を国内（札幌しカデル 2・7）で実施した。4 か国が参加した。

【2．体験プログラムについて】

■体験プログラムの内容
・会長は海外でさまざまな武道を教えてきたため、そこで興味を持った武術を習いに来るケースが多い。訪日外国人に教えたことがあるのは、棒術、座弓、槍術、刀法、柔術、杖術、手裏剣。なお、海外の女性には杖術が人気。 ＜申込方法＞ ・申込はメールが多い。 ＜内容＞ ・体験の内容は来る人の希望によるが、本人のレベルを見極めて指導をする。とくに決まったプログラムはない。稽古の時間は希望による。場所は本部道場又は札幌市内の体育

施設等で実施する。指導者については生徒の数による。

■参加者層

＜国別＞

・国別では今もフィンランド人が多い。最初の付き合いから広がった。その他はイタリア、ウクライナ、アゼルバイジャンなど多様。北欧系は武術に対する興味が大きいと感じる。

＜武道レベル＞

・当会に来る外国人の大半は外国で習っている人たちで、初心者は数人程度。

■当会への参加理由（選ばれる理由）

・体験者が帰国後にくれるメールでは、教えられた内容に感動したという内容が多い。

■参加者に喜ばれること

・刀法であれば「組太刀」、「試し斬り」

「試し斬り」には日本刀が必要である。日本の刀匠が作った刀は巻藁を 200 本くらい斬ったら研いでもらわなければいけないのだが、それに 12 万くらいかかる。ただ、それを使った体験もさせてきたが、これまで費用はもらったことはない。

模擬刀も使うが、それを習う人は自分で持って来る。また、当会でも数本保有しているが、ツーリズムを受け入れるのであれば、そのために用意する必要が出てくる。

・柔術であれば「組動作」が人気。

・杖術であれば「組動作」女性に人気。

・その他「棒術」、「座弓」、「手裏剣」、「空手術」等においても興味を持って実施している。基本的に経験者含め初めての体験（発見）が多く興味を引いている。

■武道体験のほかに喜ばれたこと

＜観光地＞

・外国人に教える観光地としては、時計台など札幌の街中、北大、定山渓などの自然。あとは帯広の農場など。冬であればニセコのスキーも人気が高い。ニセコに来るのはオーストラリア人が多いが良い人、また裕福な人も多く料金の高い豪華な施設に宿泊したりする。

【３．外国人受入による施設側のメリット】

■当初期待していたメリット

＜自己研鑽の機会＞

・付き合いの中で各国の歴史を覚える。外国人も弁慶や牛若丸を知っていたりするので、こちらもある程度知っておかなければ、という気持ちになるし、自己研鑽につながる。

＜外国人とのつながり＞
・また、来館者が帰国した後もメールでやりとりするなど、人とのつながりができること。

■外国人受入による気づき
・外国人（経験者）は指導者の力量が低いと馬鹿にしてくるので最初が大事。最初にこちらの力量を図るような空気が出ていることが分かるので、指導者の武道力の高さは必要。
・外国人（初心者）は不器用な面や痛がりな面がある。

【４．インバウンド等受入に当たっての課題】

■コミュニケーションについて
・当会には通訳はいないが、稽古に関しては通訳がいなくてもどうにかなる。特に欧米人は通じなくても大丈夫。ただ、外国人のなかには人の話を聞かず騒がしい人もいるので、そういう人たちをいさめる場合には通訳がいた方が良い。
・また、お互いの国の歴史の話など雑談をする際にもいた方が良い。

■日本人との違い
・外国人特有の難しさはあまりない。少なくとも日本に興味がある人達で、日本に好意的な人たちが多いため問題はない。

■トラブル
・これまでにトラブルはない。ただ、受け入れ国の政治、宗教は勉強する必要あり。
・当会ではこれまでケガはない。ただ、模擬刀でケガをする可能性はある。真剣を手で持とうとする人はいないが、模擬刀は斬れないと思って扱いを間違えると剣先を刺してしまってケガをする場合がある。
なお当会では障害保険の加入受付はしていない。

■今後の課題
＜周辺への気遣い＞
・当道場の駐車場は観光バスを停めることのできる広さはある。ただ、住宅街に立地しているので、観光バスで来るのであれば、町内に対して気を遣う必要が出てくる。
＜価格設定＞
・今後ツーリズムを受け入れる際に必要となるのは価格設定。
これまで料金を受け取ったことないからわからないが、協力してくれる指導者（当会会員）への指導料は必要。
1 日の 2 時間体験であれば 1 人 5,000 円くらい。スキーのインストラクターが半日 5000 円くらい。1 日なら 10,000 円くらいなので、そうしたものが 1 つの目安になると考える

・そのほか用具など準備費用。試し斬りであれば巻き藁は 1 本 500 円。模擬刀は 2 万円。安いものであれば 5,000 円程度。初心者用であればそれで良いだろう。帯を締められないと刀をさせないので道着も必要。道着を着てやりたいということであれば、費用さえ用意してもらえればこちらで用意する。
刀 5 千円～2 万円、道着と袴 1.5 万円、あと帯で合計 2.5~3.5 万円くらい。それを土産として持って帰れるのであれば喜ばれるかもしれない。用品店も喜ぶだろう。

【５．その他】

■旅行会社などへの要望

・旅行会社のツーリズム受け入れは、内容次第ではあるが可能。バスも 1～2 台は駐車可能。指導員（当会の会員）は仕事をしているので、受入可能日及び時間帯は事前に調整が必要（1ヶ月前)。
・相談すべき内容は、どういう人が来るか（年齢、性別、武道経験等)、ニーズ、興味を知りたい。そのうえでプログラムの内容を検討する必要がある。
「1 日体験だけしたいのか、何日も来館して上手になって帰りたいのか」「1 つの武術だけか、3 種目くらい組み合わせて体験したいのか」にもよってくる。
・受け入れる側としては、観光のついでに武道を体験したいというパターンよりも、1 週間程度の間、可能な限り武術を学びたいという人を受け入れる方が楽。普段から武術を教えているので、それは日本人でも外国人でも変わらない。
ツーリズムの場合は通訳がいてくれれば、学びたいことを体験者から聞くことができるので、いた方が良いかもしれない。

■武道ツーリズム施策について

・武道ツーリズムという言葉の定義について明確にしてもらいたい。武道とは武術の鍛錬を積む中で人間力（その時代の生きる力（心)）を高めるための道程と考える。武道は時間をかけた鍛錬が必要と思料する。
・外国人との交流によりお互いに良いところを知り、悪いところを知って正し手をつなぐというのが国際親善であり多様性推進の目的と考える。現場で本当の国際交流ができるようにすることを目的として考えることが必要だと思う。(世界平和の一助として。)
・武道（武術）を商品としての施策だと思う。官公庁、旅行会社等はビジネス主体に施策を考察していると思われる。現場については門下生であろうが体験希望者（外国人インバウンド）であっても確りと指導することに変わりはない。(当会は営利企業ではないので古武術発展のためにサービスで指導）特に古武術などは細々と引き継がれてきたが、高齢化も問題である。現場あっての施策（武道ツーリズム）と思うが、武術は現状限られた資源である。長期間にわたって本施策を実施するにあたり、現場（各流派等）を発展させること（無限の資源化）が最重要と思料する。この機会に、武道だけではなく日本の伝統文化に対して国等の支援等をお願いしたい。

・武道（武術）に関する教育の必要性を感じる。外国人は日本人が武術を出来ると思っているのではないか。学校教育の中にもっと積極的に組み込んではどうか。日本人が武道を軽視しているのではないか。（教育、世論に問題）
・当会は営利企業ではない。営業の実施要領等素人なので、実行に至るときは計画の段階から指導等お願いしたい。

静仙洞ユーアイ弓道場

【施設概要】

体験可能な武道	弓道
所在地	埼玉県秩父市下影森 1082
ホームページ	ー
外国人受入実績	1980 年代後半に弓道指導のためにイタリアに行った縁で、その後、弓道の昇段審査を受ける目的で来日するイタリア人を年に 1 回受入れ。また、やはり昇段審査目的で来日するスリランカ人も同程度受け入れ。そのほか、南アフリカ、イスラエル、チェコ、ドイツ、香港からも受け入れ経験あり。

【道場周辺　秩父の山々】

【道場外観】

【施設内観】

【フォームチェック用の鏡】

【屋外の的に向かって射る】

【練習用の巻き藁】

【弓道具】

【1. 外国人受入当初について】

■外国人の受入開始時期
1980 年代後半
■背景
＜個人的な付き合いがきっかけでイタリアから来日＞ ・1980 年代後半、イタリア在住の知り合いに請われて現地に弓道を教えに行ったのだが、そこで稽古に参加していたイタリア人のなかで、日本で昇段・昇級審査を受けたいという人がいた。審査を受けるには日本の道場に属した上で弓道連盟の会員になる必要があるため、来日した際に当道場の会員として弓道連盟に登録し、審査を受けさせた。その後も審査のための来日が 2010 年ころまで 7~8 年続いた。 一旦、諸事情によりその来日が途切れたのだが、その後、再び同じ目的で来日するようになり、コロナ前まで続いた。 また、同じように欧州での指導に赴いた際にできた縁で、現地にいたスリランカ人も審査目的で来日するようになった。そのスリランカ人が母国で弓道のグループを作ったのだが、そこに参加している弓道仲間にも広がり、コロナ前まで年に 1 度来日していた。 ・昇段審査は日本全国で日程をずらして行われている。イタリア人もスリランカ人も、来日希望時期を聞いて上で、そのタイミングで行われる場所を探して、受けさせている。これまでは福島県や長野県、栃木県等で受けることがあった。 昇段審査は 1 級もしくは初段から始まるが、何度も来日して 6 段にまでなった人がいる。

【２．体験プログラムについて】

■体験プログラムの内容
＜来日前の連絡＞ ・来日希望の連絡はメールや電話。30 年ほど前からイタリアに何度も行っていたことで、代表は片言のイタリア語を覚えた。それでやり取りしている。 ・スリランカ人については、何年も日本で生活していて日本語を話せる人がいるので、その人に訳してもらい、やり取りしている。 ・代表は神社の宮司をしているため、その予定を踏まえて双方で調整の上、受入時期を決定している。 ＜事前準備（各種手配）＞ ・イタリア人もスリランカ人も審査日の 1 週間から 10 日前に来日。

・審査は入場や退場の所作に関することが多いのだが、当道場の広さではその練習はできない。近くには広い公共道場があるため、必要に応じて事前に予約手配もしている。
・スリランカ人はおおよそ 5 人程度。イタリア人は多い時で 17～18 人来るときもあるので、市内の民宿を手配。
また、来日中は弓道の練習の他、バスを借りて観光など遊びに連れていくなどしている。インターネットで事前に行きたい場所などを調べているようで、そうした場所に連れて行くためにバスの手配もしている。
・一方、弓道着などは各自持って来日する。

＜稽古内容＞
・所作や引き方などレベルに応じて教えている。

＜訪日中のスケジュール例＞

1 日目	宿の送迎バスで秩父市内の民宿に宿泊
2 日目～3 日目	朝 8 時から練習、昼食、午後は練習 or 付近の観光
4～5 日目	秩父市内の観光地を案内（観光の日は観光だけ）
6～7 日目	稽古
8 日目	審査
9 日目	帰国（1 日観光してから帰国のケースもあり）

＜費用＞
・稽古の指導料は受け取っていない。
・手配したバスや民宿の費用は自身を介さず、来日者が直接払う。
また、予約手配の手数料は受け取っていない。人数が少ないときは自身の自宅に泊まらせることもあり、その際に食費を受け取る程度。

■参加者層

・受け入れた国はイタリア人とスリランカ人をそれぞれ年に 1 回程度受け入れ。
それよりも頻度は少ないが、南アフリカ、イスラエル、チェコ、ドイツ、香港からの受け入れ経験もあり。

・いずれも幅広い年齢層が来日する。

■当会への参加理由（選ばれる理由）

・外国人は手取り足取り教えてあげることが喜ばれているのではないか。反対に、口だけで「やれ」と教えることを喜ばない。
・当道場だと指導者は代表 1 名で指導しているがそれが喜ばれている。何人もの指導者か

ら教えるケースがあり、同じことでも教え方が指導者によって異なる場合がある。それを好まない外国人は多い。
・自身は神社で宮司をやっていて、また茶道の師範でもあるため、日本文化について尋ねられた場合に話せることも多い。そうした話で喜んでもらえている部分もあると感じる。

■武道体験のほかに喜ばれたこと

・審査のために来ているが、観光は楽しみのようだ。三峰神社や長瀞の山川散策など。
近くの骨董品店に連れていくこともあるが、喜んで多くの品を買って帰る外国人も多い。
イタリア人もスリランカ人も連れていく場所は一緒。
また、審査終了後は訪日客だけで県外の観光地に行って帰るケースも多い。
・そのほか、近くの公民館で行われる秩父市主催の茶道クラブがあるのだが、代表自身が茶道の講師をしていることもあり、そこでの体験に連れて行くこともある。

【３．外国人受入による施設側のメリット】

■外国人を受け入れて良かったこと

・何がというのではなく、全て良かった。嫌な思いをしたことはない。30 年も外国人との付き合いが続いていることは本当にうれしいこと。生きる上での自身の楽しみや喜びになっている。

■外国人受入による気づき

・日本人と比較して外国人の方が教わったことを一生懸命理解しようとする。そのため、日本人より所作が美しい外国人は多い。昇段審査には当道場で練習をする外国人以外にも多様な国の人が参加するが、皆、美しい。
・日本の伝統的な道具を使用し、伝統的な正しい方法で当てることが弓道の実技における目的。ただ単に当てることだけが目的になってしまわないように指導している。
・自身が見本を見せる際に、的にうまく当たらないこともある。ただ、外国人は気にしない。教える側が一生懸命であればそれが伝わる。

【４．インバウンド等受入に当たっての課題】

■コミュニケーションについて

・来日前のやりとりと同じく、イタリア人とは片言のイタリア語。スリランカ人とは、知人の協力を得られる場合には通訳を依頼している。
・柔道の技名のように、弓道にも弓道ならではの用語がある。それを外国語に訳すとおかしくなるため、そうした言葉は日本語のまま教えている。
・自身の信念として必要なこと以外は教えない。教えるのではなく、みんなと一緒に稽古

をすることが好きだということを最初に伝えている。
ただ、初心者には手を取ってしっかり教える。外国人が失敗した場合には、口で教えるだけでなく手を取って教えてあげることが大事。言葉よりも体を使って教えることが大事で、その意味で通訳も必須ではない。

■トラブル

・ケガなどのトラブルはこれまでない。
・当会では保険対応はしていない。訪日客個人で加入する旅行保険のみ。ただ、昇段審査時は連盟が勧める保険に加入してもらっている。

【５．その他】

■旅行会社などへの要望

・秩父市は、かつて弓道場が多い地域であった。絹織物が栄えていたのだが、その経営者がお金持ちで趣味や娯楽として弓道をするために、自身で弓道場を作るケースが多かったようだ。そのため、今も市内に数件程度の施設がある。

・要望は特にないが、「秩父に行きたい、弓道をしてみたい」という外国人がいたら、当施設で良ければ対応を検討するので、まず問い合わせてもらいたい。

■外国人の受入を検討する施設に対して

・外国人に教えても理解できないのでは、という先入観をなくすことが大事。それよりも外国人と触れ合える良い機会と考えた方が良い。例えば外国人女性が自然にハグをしてこようとするなど最初は戸惑うこともあるが、受け入れているうちに慣れてしまう。
また、手取り足取り教えれば外国人はきっと喜ぶ。

武蔵一族

【施設概要】

体験可能な武道	忍術
所在地	東京都港区芝公園 3 丁目 5-8 機械振興会館　B413
ホームページ	https://ninjawarriors.ninja-web.net/
外国人受入実績	2006 年より受入れ開始 コロナ前はほぼ毎日受入れていた。1 日 3 組程度。 大きい団体が月に 1 回。4 月などハイシーズンは 1 日 5 組。 基本的に完全予約制。

【道場内】

【指導者】

【指導者】

【忍術用具各種】

【1．外国人受入当初について】

■外国人の受入開始時期
2006 年より
■背景
・それまで国内でも存在をオープンにはしていなかったのだが、旅行会社から体験ができないかという問い合わせがあった。代表が過去にバスガイドをして、外国人がどのようなことやサービスを喜ぶかについて知っていたため、始めてみようとなった。

【２．体験プログラムについて】

■体験プログラムの内容
＜プログラムの内容＞ ・当社では通辞忍びと呼ぶガイドを教育している。お客様と話をするのは通辞忍びだが、彼らとお客様が話している様子を見て内容を考えている。 ・門弟教育用の易しいプログラムを外国人の体験向けに採用している。最初は「武道」をやろうとしたのだが、来客者が教えた通りに動くことができない。そのため、まず精神性を体験するプログラムに切り替えたところ、とても喜ばれた。 「本物」を伝えたいのだが、旅行会社とプログラムを考えると、どちらかというと「遊ぶ」目線になってしまい、こちらの伝えたいものが伝わらないのではないかと思ったため、プログラムの内容はこちらから提案した。 ・一番多いのは 90 分のプログラム。 忍者の場合は一度に 20 人くらい。サムライの場合は木刀を持つのでスペースが余分に必要となり 6～8 人。それ以上の場合は当ビル内に 30 人程度収容可能なホールがあるため、そちらを使用している。 ・まず礼法から教える。礼は調和。和を求めて修行をするのだと伝える。それから瞑想して、講師が演武をして、動きの説明をしている。 それから参加者に着替えてもらい、武器を見せる。 天地人三才の思想というものがあって、人の輪が大事であることを伝えている。 長い時間のプログラムの場合は忍法の考え方を伝える。忍法は武術ではない。例えば忍び足は体幹の訓練である。忍者が小さいときに教わるのは音を立てないで歩く、気配を消す、呼吸を静かにするということなのだが、体験者にもそのあたりを教えている。 それから剣を動かしてもらうが、その動きをする理由を説明する。そこで体験者の喜びがある。

＜費用＞

・金額は 90 分で 16,000 円。トリップアドバイザーでもエージェントの紹介でも同じ。
費用の積算としてまず人件費。本物の通訳や師範を入れるので安くはできない。これを始めたのも忍者が修行していくのは大変で一ヶ月間山に入ったりするので仕事ができない。若い忍者たちは食べることが大変で、今後忍者が減っていくのではないか、そうしたら自分たちの文化がなくなっていくのではという危機感があった。そうした若い人たちが外部に見せることで対価を得られるようになったら良いとと考えている。
1 回のセッションで師範には 5,000 円プラス交通費、通訳も 5,000 円プラス交通費。それでも安い。当社に協力してくれる通訳は日本文化を紹介伝えたいという理由からボランティア感覚で来てくれているため費用を抑えることができているが、本来はより多くの費用が必要となる。

・そのほかに衣装代、洗濯代や盗まれた用品の費用、施設の維持費など。
旅行会社へのコミッションは 10%。

■参加者層

・当館への来訪者は欧米系が多い。フランス人の場合はアニメ「ナルト」がきっかけという人が多い。そのほか中東の王族など。
小さいころから忍者を知っている外国人も多い様子。

・富裕層が多い。そうした層の来客を扱っているエージェントが連れてきてくれるケースが多い。また、口コミの広がりによって、一般旅行者だけでなく外国のスパイや特殊部隊に所属する人たちの来館もある。

■当会への参加理由（選ばれる理由）

＜本物感＞

・当社は知人からの紹介のほか、トリップアドバイザーにもプログラムを登録している。そこで「本物感」が伝わるようにしている。例え、映画「ラストサムライ」のモデルになったフランス人（ジュールブルネ氏）を伝えてきたのが当会の先祖である。そうしたことや、先祖が遣欧使として 1862 年に行った際にナポレオン 3 世に会ってなどの歴史があることを掲載している。そうすることで長い歴史のある本物の一族であるという説得感を増している。
・安い金額で忍者体験のサービスを提供しているケースも見られるが、当社は本物の武術を見せていることと、精神性を伝えるプログラムとしている点が他の忍者体験プログラムとは異なる。

また、日本人の義理や忠誠などを感じ取れるようなアプローチをしている。そうしたことが評価されて旅行会社や 4 つ星以上のホテルのコンシェルジェなどが外国人に紹介してくれて富裕層の来客数が増えた。宣伝などは特にしていないのだが、そうした口コミが広がっていることが大きい。

■参加者に喜ばれること

・外国人に喜ばれるのは、「ここでしか観られないものが観られた」「普段は入れないところに入れた」という感動だと思う。

・外国人は力技だが、それが自分より小さい日本人に負ける。それがなぜ負けるのか理解できないのだが、その負けた理由を体の使い方を教えながら説明するとすごく納得して喜ばれる。気に入ったために帰国前にもう一度来館するケースもある。

■武道体験のほかに喜ばれたこと

＜お土産＞

・初心者の方向けに実施したメニューを切り紙で渡している。

＜観光＞

・観光地としては外国人は富士山に対する興味が大きいのだが、個々のニーズに応じた提案が必要。

【３．外国人受入による施設側のメリット】

■当初期待していたメリット

・世界中に友人ができること。海外の人と、人として分かり合えるようになることは大きい。
SNS でのやりとりをはじめ、お土産を送ってくれたり、新たな来店者を紹介してくれたりなど、参加後のつながりもできている。

【４．インバウンド等受入に当たっての課題】

■コミュニケーションについて

・当社では考え方や精神性を伝え、それをどのように伝えるかを教えて通訳士を育てている。ニュアンスや本質を伝えるのに十分な通訳は必要。旅行会社も通訳を連れてくるが、通訳は当社が育てた通訳士に任せてもらっている。

■参加者の地域や国による違い

・イスラム教徒は絶対に礼はできない、女性にあいさつはできない。また、ユダヤ教徒も礼ができない。その場合はそれなりで見せるしかない。相手の宗教を踏まえた対応は必要。

■トラブル

特にトラブルはない。

■最初は課題であったが経験をしている中で解消された課題

・ガイドをしていた経験が生きていて、最初から外国人を受け入れることにおける難しさはなかった。

■今後の課題

・外国人に関することではないが、日本人の申し込みがほとんどない。忍者体験にお金を払おうという感覚を持っている人も少ない上に、来たとしても学ぼうというより遊ぶつもりで来る人が多く、来ても感じてもらうことが少ない。ただ、コロナで外国人が来れなくなっているので日本人にリーチする方法も考えていかなければいけないと考えている。
企業の研修の体験のひとつとしてチームビルディングを学ぶ内容だったり提供できるものもあると思うので、そうした点は検討していきたい。

【５．その他】

■旅行会社などへの要望

＜まず旅行会社が体験＞

・これまでも、まず最初に外国人を連れてくる旅行会社やエージェントの方自身に来て体験をしてもらった。事前に体験した人としていない人とでは、ツーリストへのアプローチや紹介する際の説得力も変わってくるため、旅行会社の担当者に可能な限り事前に体験してもらいたい。
また、外国人と一緒に初体験をする旅行会社のガイドさんが一番喜んでしまうケースがあるのだが、ガイドさんがこちらの文化を知らないでガイドをしているというのはまずい。そのため、参加者を連れてくる前にまず体験してほしい。

＜事前の相談内容＞

・ホテルからの紹介の場合は今日、明日の対応も可能だが、少しでも早めに相談してもらうようにしている。早いと１年前、半年前～3ヶ月前から申し込むケースが多い。

事前に知りたい内容は、参加人数の他、衣装準備のために参加者ひとりひとりの身長。ほかには性別。男の忍者と女性忍者（くのいち）で着るものが異なるため。
・そのほかは、これまでもこちらに合わせてきてもらったので特にない。

■インバウンド等の集客について

＜教える内容は精神性が重要＞
・他の武道でもそうだが、各武道特有の動きだけでなく精神性をつたえられることが大事。また、疲れたときに日本人としての思いやりを見せてあげることも大事。そうした点で語学も大事でそれを伝えられることが大事。
あとはお茶を出したりするだけでも良い。もてなしをする側がそうした気配を感じること、簡単に言えば気配りが大事。

＜外国人受入れにあたって必要な設備＞
・洋式お手洗いは必須。可能であればシャワーもあると良い。

＜留意すべきこと＞
・外国人のエージェントは服のサイズなど誤った情報を伝えてくることがあるので、そうした場合のために予備も必要。

公益財団法人合気会 合気道本部道場

【施設概要】

体験可能な武道	合気道
所在地	東京都新宿区若松町 17-18
ホームページ	http://www.aikikai.or.jp/
外国人受入実績	・基本的には見学希望者や稽古への参加（入会手続き必須）を希望する人を受け入れている。海外からの訪日客に合気道を体験してもらおうというプログラムを用意しているわけではない。 ・そのほか、団体からの依頼対応もあるが、比率としては少なくおおよそ個人 8 割に対し団体 2 割程度の割合。

【外観】

【道場①（3 階道場）】

【道場②（4 階道場）】

【合気道開祖植芝盛平氏（左）と植芝吉祥丸二代道主（右）】

【植芝盛平氏の直筆掛け軸】

【男性更衣室】

【2 階道場の稽古時間割】

【合気道本部道場 昇級昇段審査要項（日本語版）】

本部道場 昇級・昇段審査要項

公益財団法人 合気会

受験段級	受験資格日数	審査内容：一教	二教	三教	四教	五教	四方投げ	入身投げ	小手返し	天地投げ	回転投げ	自由技（諸手）	呼吸法
五級	入会後30日以上稽古した者	○正面打					○片手取	○正面打					○座技
四級	五級取得後40日以上稽古した者	○正面打	○肩取				○横面打	○正面打					○座技
参級	四級取得後50日以上稽古した者	○正面打（座技および立技）					○両手取 ○横面打	○正面打・突		○両手取			○座技
弐級	参級取得後50日以上稽古した者	○正面打 ○肩取（座技および立技）					○片手取（半身半立）	○正面打・突（立技） ○片手取		○両手取	○片手取	○片手取	○座技
壱級	弐級取得後60日以上稽古した者	○正面打 ○横面打 ○肩取 ○後両手取（座技および立技）				○横面打	○片手取 ○両手取（半身半立および立技）	○正面打・突 ○片手取		○両手取	○正面打・突 ○片手取	○片手取 ○両手取 ○諸手取	○座技 ○立技
初段	壱級取得後70日以上稽古した者（年令15才以上）	○徒手技法（座技・半身半立・立技で面・肩・胸・肘・手・後など各部の技）											
弐段	初段允可後1年以上経過した者（稽古日数200日以上）	○上記に 短刀取・二人掛を加える					○合気道に関する感想文を提出する。						
参段	弐段允可後2年以上経過した者（稽古日数300日以上）	○上記に 太刀取・杖取・多人数掛を加える					○合気道に関する感想文を提出する。（課題を指定する）						
四段	参段允可後3年以上経過した者（稽古日数400日以上）	○上記に基いて 自由技を加える					○合気道に関する小論文を提出する。						

※備考

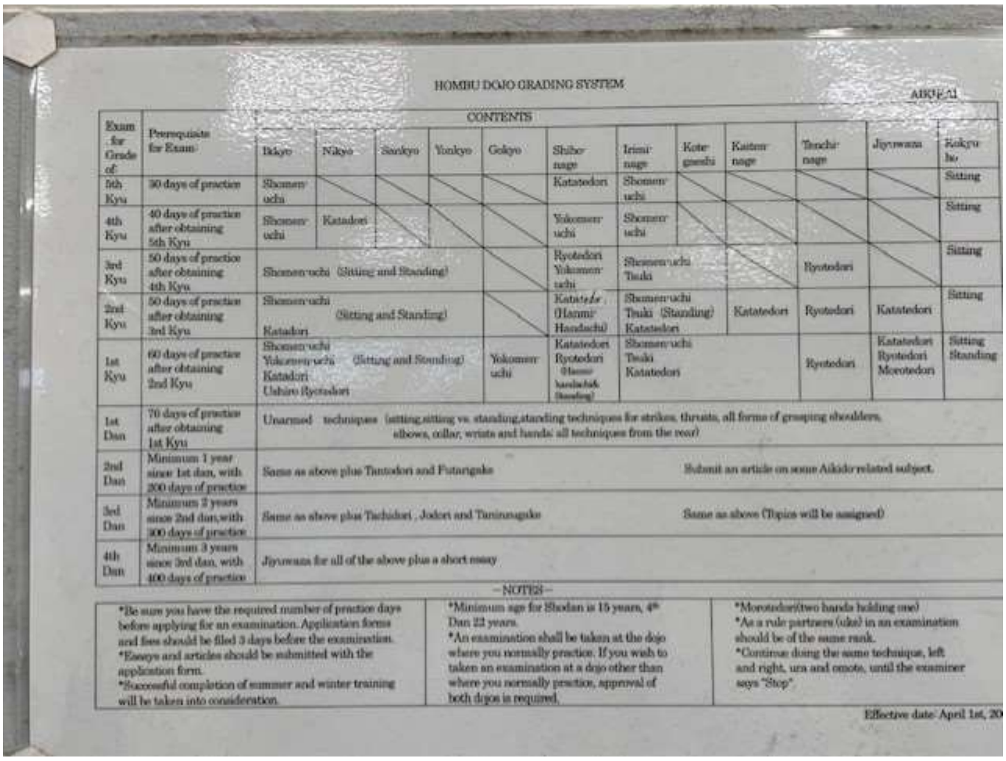
◎受験資格日数をよく厳守して、審査の届けは受験日の三日前までに審査料を添えて提出する。
◎感想文および小論文は、審査用紙に添えて提出する。
◎暑中稽古・寒中稽古の皆勤を考慮に入れる。
◎初段受験資格者の年令は満15才以上、四段は満22才以上とする。

◎審査は主たる稽古道場で受験することを原則とする。ただし、やむを得ぬ事情で他の道場において審査を希望する場合は、両道場の指導責任者の許可を必要とする。

◎受身の相手を選ぶ場合には、原則として同じ段級の者とする。
◎審査員の「止め」のかかるまで同一技を左右・表裏数回行う。

平成19年4月1日より実施

【合気道本部道場 昇級昇段審査要項（英語版）】



HOMBU DOJO GRADING SYSTEM

AIKIKAI

Exam for Grade of	Prerequisite for Exam	CONTENTS: Ikkyo	Nikyo	Sankyo	Yonkyo	Gokyo	Shiho-nage	Irimi-nage	Kote-gaeshi	Kaiten-nage	Tenchi-nage	Jiyuwaza	Kokyu-ho
5th Kyu	30 days of practice	Shomen-uchi					Katatedori	Shomen-uchi					Sitting
4th Kyu	40 days of practice after obtaining 5th Kyu	Shomen-uchi	Katadori				Yokomen-uchi	Shomen-uchi					Sitting
3rd Kyu	50 days of practice after obtaining 4th Kyu	Shomen-uchi (Sitting and Standing)					Ryotedori Yokomen-uchi	Shomen-uchi Tsuki			Ryotedori		Sitting
2nd Kyu	50 days of practice after obtaining 3rd Kyu	Shomen-uchi Katadori (Sitting and Standing)					Katatedori (Hanmi-Handachi)	Shomen-uchi Tsuki (Standing) Katatedori		Katatedori	Ryotedori	Katatedori	Sitting
1st Kyu	60 days of practice after obtaining 2nd Kyu	Shomen-uchi Yokomen-uchi Katadori Ushiro Ryotedori (Sitting and Standing)				Yokomen-uchi	Katatedori Ryotedori (Hanmi-handachi & Standing)	Shomen-uchi Tsuki Katatedori			Ryotedori	Katatedori Ryotedori Morotedori	Sitting Standing
1st Dan	70 days of practice after obtaining 1st Kyu	Unarmed techniques (sitting,sitting vs. standing,standing techniques for strikes, thrusts, all forms of grasping shoulders, elbows, collar, wrists and hands; all techniques from the rear)											
2nd Dan	Minimum 1 year since 1st dan, with 200 days of practice	Same as above plus Tantodori and Futarigake					Submit an article on some Aikido related subject.						
3rd Dan	Minimum 2 years since 2nd dan,with 300 days of practice	Same as above plus Tachidori , Jodori and Taninzugake					Same as above (Topics will be assigned)						
4th Dan	Minimum 3 years since 3rd dan, with 400 days of practice	Jiyuwaza for all of the above plus a short essay											

—NOTES—

*Be sure you have the required number of practice days before applying for an examination. Application forms and fees should be filed 3 days before the examination.
*Essays and articles should be submitted with the application form.
*Successful completion of summer and winter training will be taken into consideration.

*Minimum age for Shodan is 15 years, 4th Dan 22 years.
*An examination shall be taken at the dojo where you normally practice. If you wish to taken an examination at a dojo other than where you normally practice, approval of both dojos is required.

*Morotedori(two hands holding one)
*As a rule partners (uke) in an examination should be of the same rank.
*Continue doing the same technique, left and right, ura and omote, until the examiner says "Stop".

Effective date: April 1st, 20

【1．外国人受入当初について】

■外国人の受入開始時期と背景

・道場を開いたころより、外国人を自然と受け入れていた。

【２．体験プログラムについて】

■プログラムの内容

・体験プログラムはない。見学か入会手続きを経た上での稽古への参加となる。

・稽古参加は入会や道着着用（道着は購入 or 持参）等の条件を満たしていれば当日でも可。

・稽古は初心者クラスと一般クラスに大別され、どちらに参加するかは参加者自身で決定。大まかな目安として無級および 5 級から 4 級が初心者クラス、3 級級より上の人が一般クラスに参加することが多い。初段以上は一般クラスにしか出席できないが、級であれば初心者クラスにも一般にも各自の判断で出席可能。

・稽古時間はともに 1 時間。

・2022 年 3 月 1 日現在の費用は下表の通り。

＜入会金および月会費＞

種別 / Class		入会金（円）Enrollment fee	月会費（円）Monthly fee	稽古日 Practice day
一般クラス / Regular Class 初心者クラス / Beginners' Class 女子クラス / Women's Class		¥8,800	¥11,000 但し学生・未成年は ¥8,250*1	日曜、祭日を除く毎日 Every day excluding Sunday and national holidays
			¥14,300 但し学生・未成年は ¥12,100*1	国民の祝日を除く毎日 Every day excluding national holidays
日曜クラス / Sunday Class			¥5,500	毎日曜日 Every Sun.
特別部 Special Class	個人 / Individual		¥44,000	週 2 回　2 days/week
	グループ / Group		¥66,000～	週 2 回　2 days/week
女性講座 / Women's special class			¥11,000	火・金 / Tue・Fri
少年部 / Children's class（15 歳以下）/ under 15-year-old			¥4,950	詳細は別紙*2

＜初心者クラスの内容＞

・準備体操、受け身、体捌き、基本技（2 人組）という順番で行っている。基本技に割く時間が多い。

＜一般クラスの内容＞

・準備体操は行うが、それ以外は各指導者の裁量に任せている。

＜参加申込＞

・メールでの申し込みが多い。英語とスペイン語はネイティブの職員がいるため対応可能。ロシア語などの言語も必要があれば最低限の対応は可能だが、可能な限り英語で申し込んで欲しい。

＜特別対応＞

・稽古の参加者は基本的に入会を必須としていて、道着の購入もしくは持参が必要。
ただ、コロナ前は特別措置として海外にある合気会の登録団体に入会している人を対象としてビジター会費を支払えば 1 日でも稽古へ参加できるようにしていた。

・新型コロナウイルス発生後は密防止の観点から、特別措置を中止している。コロナ感染が続いている現状は制度復活を検討しておらず、将来的に元に戻す予定もない。今後、国や東京都が決めた条件をクリアした上での来訪を前提として、社会的要請を鑑みて対応を検討していく。

■参加者層

・稽古に参加する外国人は仕事、結婚、留学等で日本に滞在している人が大半。

・母国で合気道を経験した外国人が長期休暇を取得して道場に通い続けるというケースもコロナ前は見られた。

・合気道の普及状況に比例する傾向が見られ、北米、中南米地域、欧州からの参加が多く、中国などアジアからの参加比率も少しずつ増えている。

■当会への参加理由（選ばれる理由）

・世界中の合気道の中心的な道場であるため、「いつかは本部道場の稽古に参加したい」と思っていた人が多い。

＜リピーターについて＞

・当会の稽古に参加して、その後再び来日した際にも参加する人について、訪日の目的は分かれる。本部での稽古参加に感動し、とにかく合気道が最大の目的で来日したという人と、観光目的の 1 コンテンツで来る人。ただ、何度も来る人は合気道目的での訪日比率は高いと思う。

・リピーターになる人の比率、性別の偏りはない。訪日するにもお金が必要なため、年齢については、ある程度生活に余裕のある 40 代以上が多い印象。出身国や地域は合気道の普及度合いの影響を受けていると思う。

■参加者に喜ばれること

＜稽古内容＞

・合気道道主（合気道の家元）の稽古に参加でき、直接指導を受けることができる。

・合気道本部道場で稽古ができたという達成感を感じている模様。母国で稽古していて、「いつかは本部で稽古を」と思っていた念願が叶ったと喜ぶことが多い。

・海外の人が参加しているからといって稽古の内容は変えていない。本部道場の指導者は高いレベルを有しているので、そうした指導者に普段通りの教えてもらえたこと、その

高いレベルに触れられたことが喜ばれる。

＜備品＞

・道場内に掛けられた合気道開祖である植芝盛平氏の直筆の掛け軸は喜ばれる。写真を撮る外国人は多い。

【３．外国人受入による施設側のメリット】

■合気会としてのメリット

・参加者が帰国した際に、体験談を周りに伝えることで合気道が広がるという効果。

■一般会員にとってのメリット

・学生・社会人などの一般会員にとって多様な文化の人と触れ合えることはいい刺激をもらえる機会である。
コロナ前は、毎日のように多様な国からの参加が見られ、稽古後に一緒に食事に行くなど、異文化交流のきっかけとなっていた面がある。

【４．インバウンド等受入に当たっての課題】

■コミュニケーションについて

・英語に対応できる職員はいる。また、入門者にも多様な国の人がいるので、ある程度は英語以外の言語もある程度カバーできる。
ただ、稽古中は指導者が英語を話さなくても特に問題ないため、外国語を話せる人を通訳として付きっ切りにさせることはない。

■日本人との違い

・靴を脱ぐべきところで脱がずに入ってしまうケースがある。注意をして脱いでもらうが、文化の違いがあるので仕方がない。

・完全な初心者からは「人がいなくても道場に礼をする意味が分からない」という質問を受けることがある。

■トラブル

＜トラブルの有無＞

・これまで特にトラブルというトラブルは起きていない。

・ただ、入門費用に関するやり取りで誤解が生じることはある。例えば入会金。あくまで当会（公益財団法人合気会）に入会するということなのだが、「海外の公益財団法人合気会の登録団体に入会しているのでこちらでは入会金を払わなくてよい」と思っていて、そうではない旨を説明するケースがある。

・支払いは現金だけだが、それもホームページにはっきりと掲載しているため事前に準備してくれるケースが多い。

＜保険＞

・任意だが、（参加者にとっての）外国でケガをするすると、いろいろと大変であることを説明したうえで、スポーツ安全保険への加入を勧めている。当会で受け付けている。
加入しない場合でも、代わりにケガをカバーできる保険に入っているか確認をしている。

＜その他＞

・当道場でのマナーやエチケット、道場内の設備については HP に載せている。そちらを見てきた人は概ね理解したうえで来館している

■今後の課題

・手続きなどについて、より分かりやすいものにしていきたい。
その一環として、来館した際の設備や使い方についての動画を作り、HP に掲載している。

【５．その他】

■旅行会社などへの要望

＜参加条件の事前周知＞

・最低限の道場規則や参加条件を参加者に確実に伝えてほしい。道着の持参（ない場合は購入してもらう必要がある）、一度だけ体験したいという場合でも入会する必要があることなど。

■国内登録道場の外国人受入について

・合気会の登録団体からも外国人受入についてどうすればよいか聞かれたことはあるが、稽古内容を始めとして基本的には各道場に任せている。
・それぞれの道場の方針やルールに沿ったもので良い。

■外国人の受入を検討する施設に対して

＜事務手続きに関する英語版の説明文＞

・稽古時については、英語が話せなくても大丈夫だろう。ただ、道場規則や事務手続きについての英語の説明書は用意すると良い。特に事務手続きについては対応が楽になる面は大きい。また、道場によって手続きの方法は異なるため、その意味でも用意しておくと良い。多様な国からの参加が見られる当館の経験上でも、多言語で用意する必要性は低く、まずは英語版のみで良いと思われる。

弓馬術礼法小笠原教場

【施設概要】

体験可能な武道	弓馬術（馬上で弓を射ること）、礼法（武士の所作）、弓術
所在地	東京都世田谷区南烏山 1-8-8
ホームページ	kyojyo-jimu@ogasawara-ryu.gr.jp
外国人受入実績	・外国人に日本文化を紹介する団体からの依頼を受けた講座 ・旅行会社企画のツーリズムの 1 コンテンツとして ・当会ホームページや SNS から直接の申し込み。こちらが大半で、新型コロナ発生前までは多いときに 1 ヶ月で 3 回ほど受け入れ。 ・そのほか、外務省や大使館向けの体験会をしてほしいなどの要望を受けることもある。

【施設内観（１階　弓道場）】

【施設内観（２階　食事作法など）】

【弓馬術の様子】

【1. 外国人受入当初について】

■外国人の受入開始時期
2011 年ごろより。
■背景
・1990 年ごろより、しばしば外国メディアの取材を受けていたが、2011 年ごろより、外国人に日本文化を紹介する団体からの依頼を受けて単発の講座を行っている。 ・さらに、そうした団体から情報が伝わったのか、2015～2016 年頃より旅行会社からの依頼を受け、外国人の受入を始めた。 ・近年は当会のホームページ Facebook をはじめ、当会の SNS から直接申し込みも受け付けている。興味を持ったものについてよく調べたり、直接アプローチすることができる時代のため、当会 HP や SNS から直接申し込んでくるケースが大半となっている。

【２．体験プログラムについて】

■体験プログラムの内容
＜対応可能日＞ ・当会はや門下生皆本業を持っているので、対応可能なのは基本的に土日のみ。 ・具体的な対応可能日はホームページに掲載しておらず、まず問い合わせを受けて相談としている。 ・申込期限は体験日の 1 ヶ月前だが、実際には 3 か月以上前に申し込んでくることが多い。 ・当会の最大受入人数は 1 回あたり 30 人程度だが、多かったのは 10 人前後、直近 3~4 年に絞ると 2~4 人程度が多い。 ＜体験プログラムの内容＞ ・1 回の体験時間は 2 時間。どのような受付方法でも、内容と時間配分などはすべて相談の上で決定している。 ・希望が多い体験は弓馬術、武士の作法を学ぶ礼法、弓道など。 ・特に礼法が多い。小笠原流は鎌倉時代から一子相伝で続く歴史ある流派であり、一つのことをそれだけ長く伝えていくための哲学を学びたいという要望が多い。 ・旅行会社企画の場合も全体的な内容は旅行会社からの要望を受けて決定する。 鎌倉などで本物の流鏑馬を拝観できる場所があるのだが、そうした体験を組み込んだツアーにおいて、鎌倉に行く前に当会に来て流鏑馬について勉強したいという要望が多い。 （当施設では本物の馬に乗って弓を射る体験はできない） ＜体験プログラムの内容＞

①歴史や作法について講話	5～10 分程度
②体験	110 分程度

下記から参加者の希望にそって決定　　（時間配分は、体験内容の組み合わせによる）
・装束の着用
・弓馬術
・礼法（鎌倉時代の武士の食事作法）

＜価格＞
・固定の価格はない。
・決済は銀行振込で事後のことが多いが、クレジットカードと Paypal に対応しているので当日の支払いも可能。

＜事前準備＞
・旅行会社からの依頼の場合、大まかな希望（人数、時間、予算）を受けるが、それ以外の事前の打ち合わせはしない。旅行会社は打ち合わせをしたがるが当会任せてほしいと言っている。
そのため､最初に依頼を受けた後は1～2回ほどメールで連絡があるだけで当日を迎える。
装束や武具なども当施設に用意があるので、特別な事前準備はほぼ必要ない。

＜オンライン講座＞
・2022 年より当会主催のオンライン講座を開始する。
土日のみで、1 日最大 6 講座。（午前は 5 時～、7 時～、午後は 16 時～、17 時～、18 時～、19 時～）
参加人数が多すぎると参加者に目が行き届かなくなるため､1 講座につき最 8 名までとしている。価格は 1 時間 3,000 円。
オンラインの体験内容はお辞儀の仕方、立ち方、座り方など基本的なものが多い。
また、2 回目以降の参加者向けに中級や上級向けのような講座も用意している。
アメリカにも支部があるのだが、このオンライン講座を学んだ人がアメリカ支部で門人になるケースもある。

■参加者層
・地域や国の偏りは特にない。地域では欧米、アジアなど各地から参加される。欧米の中でも西欧だけでなくロシアからの参加もある。アジアも中台韓はじめ各地から。
当会の体験した人の情報が国を越えて伝わっているためと見られる。

■当会への参加理由（選ばれる理由）
・当会のような伝統的な弓術にはいくつかの流派はあるが、その中でも一子相伝の流派は

小笠原流だけなので興味を持たれている。

■参加者に喜ばれること

・小笠原流は所作のすべてに意味があるので、そのあたりに興味があるようで説明すると喜ばれる。
反対に、「とにかくこういう所作がある」と伝えるだけで、その所作をする理由を説明できないのでは喜ばれない。

■武道体験のほかに喜ばれたこと

・体験の参加者は、小笠原流の体験を目当てにというよりも旅行の一部に組み込んで来ることが多いので、体験終了後には参加者の予定と興味のあることを聞いて、観光名所などを紹介している。
武道に興味がある人の参加が多いので、紹介するものも武道関係が多い。
武道の神様とされる茨城の鹿島神宮、千葉の香取神宮。当施設（世田谷区）から時間はかかるが喜ばれる。
また、弓道の大会や剣道の大会なども紹介することがある。
その他には東京の弓術用品店を紹介することもある。どの武道にも観光客向けの用品店があるのだが、そうした観光客向けではなく、日本の武道家がよく訪れる店舗を紹介している。
弓具は購入して帰国する際に持ち帰ることも可能。

【３．外国人受入による施設側のメリット】

■当初期待していたメリット

・基本的に稽古や行事の無い土日だけの対応なので収入面でのメリットは大きくない。赤字にならない程度で行っている。
・当会では外国人を受け入れる際に門人をアシスタントとして付けている。参加人数によるが、10 人参加の場合で 3 人程度。
外国人は日本人ではしない質問をすることがある。その質問に対応するために勉強しなければならず研鑽を積むようになり、結果として自身の稽古となる。
教えるためには自身が理解している必要があるので、門人にとって大事な勉強の場となっている。これが当初期待していたことでもある。

■外国人受入による気づき

・多様な国の人が来るので、自身のしていることが世界のいろいろなところ行われているものだと門人が認識するようになる。

【４．インバウンド等受入に当たっての課題】

■コミュニケーションについて

・旅行会社企画の場合は旅行会社で通訳を用意されることが多い。
・当会受付の場合は知り合いに依頼して、当会で用意。訳す際に専門用語は使わないため、武道に関する特別な知識を持った人である必要はない。
・普通の稽古であれば通訳の必要性はないと思うが、通訳を付けなければ細かなことを伝えられない。体験は短期間で伝えるべきことを的確に伝える必要があるため、通訳は必要と考えている。
・通訳には、長い文章をまとめてではなく、一言あるいは二言ごとに訳してもらっている。長いと聞く方が辛くなってしまうため。
・英語のサイトを見て申し込んでいるので参加者は英語で大丈夫なことが多い。ただ、英語以外の言語の場合が必要な場合は、基本的には参加者で用意してもらっている。当会で用意することも可能だが、金額が高くなると伝えている。

■日本人との違い

・日本人の場合、初心者であってもある程度の文化背景が同じであるため、ある程度の説明で理解をしてもらえることが多いが、外国の方では専門用語を使わずに行間を埋めた説明をしなくてはならないため、指導する側は知識、技量が伴っていなければならないのだが、経験を積まないと、特に最初は難しい。
そのため、門人にまずは初心者の日本人向けの体験会をして経験を積んだ上でアシスタントとして対応させた。
・教えることについては門人のパーソナリティにもよってしまうところがある。ただ、年齢、性別、社会的地位など参加者の特徴や背景に合わせて、アシスタントにする門人を決めてあげれば良いので、アシスタントしての技量の画一化を図る必要はないと考えている。

■トラブル

・特にトラブルはない。
・事故やケガも今までにないが、施設内の事故等に対応できる損害保険をかけていて、万が一の体験参加者の事故等にも対応できる。保険料は年間 1~2 万円程度。

■施設について

・40 畳ほどの畳の部屋、約 50 ㎡の板の間（天井高約 6m）がある。Wi-Fi 対応しているため、オンライン配信が可能

■今後の課題

・武道は自身の鍛錬のために行うもの。それを体験したいというだけの人に対応することに快く思わない関係者もいる。そうした人たちがいるおかげで正しい小笠原流が続いている面も大きいので、おざなりにはできない。
一方で、体験したいと思った人には体験できるようにしたいという思いもあるので、伝統を重んじる人たちとの折り合いを付けることが大事だと考えている。

【５．その他】

■旅行会社などへの要望

・今のところ特になし。
日本の家屋に入る場合、素足だと畳に人の油がついて傷んでしまうので必ず靴下をはいてくるように伝えているのだが、そうした必要事項を事前に参加者に周知してくれていたりもするので。

■インバウンド等の集客について

・外国人の受入が広がらないのは武道であるがゆえと考えている。
・武道は自己研鑽の場であって体験者のために時間を費やす場ではないという考えが多くの関係者にあるのではないか。その考えがあるから受け入れたくないという人が多いのだと思う。
施設面については大半の武道施設であれば対応できると考えられる。

■体験参加者とのつながり

・参加後に当会の Facebook に書き込をする参加者も多い。英語をはじめ多言語での書き込みがあるが、件数が多いので個別対応はできていない。

■今後の受入方針

・平日夜など受入可能な時間帯を増やす意向。

戸山流備前会

【施設概要】

体験可能な武道	居合・撃剣・試し斬り及びサムライ体験
所在地	東京都町田市原町田３－１４－１４－３Ｆ
ホームページ	http://iai-yabusame.com/
外国人受入実績	・「体験紹介サイト（Airbnb・アクティビティジャパン）からの申し込み」、「旅行会社企画のツーリズム」、「知人からの依頼による体験講座等の開催」による受入実績有。 ・特に体験紹介サイトからの申し込みが多く、受付回数に占める比率はおよそ 9 割。 ・体験サイトからの申し込みは 2019 年の多い時で 1 ヶ月におよそ 30 人ほどであった。

【外観（3 階が当施設）】

【3 階入口】

【施設内観】

【模擬刀】

【刀袋】

【撃剣用具】

【会長による演武の様子】

【1．外国人受入当初について】

■外国人の受入開始時期

・2018 年夏ごろ

■背景

・元々、備前会では外国人向けのプライベートレッスンを行っていた。そのプライベートレッスンの門下生から、Airbnb という体験プログラムを登録できるサイトを紹介されたことが外国人を積極的に受け入れるようになったきっかけ。

・外国人を積極的に受け入れるようになった理由は、外国人の方が日本人よりもサムライ体験が好き、さらに言えば日本の文化体験は日本人より外国人の方が好きで需要があると判断したため。

【２．体験プログラムについて】

■体験プログラムの内容

・体験紹介サイトからの申し込みの場合、1 回あたり 1～10 人。

・1 日につき、8 時～、10 時～、13 時～、16 時～、19 時～の 5 回
申込は実施日の実施時間の 12 時間前まで受付。
（例えば一番早い午前 8 時スタートの場合は前日の 20 時までが受付期限。

・以下の内容で 1 回当たり 90 分程度、価格は 13,000 円。
1~3 人くらいまでであれば 90 分だが、それ以上の場合は 120 分程度を要する。時間オーバー分はサービス。
最初は集客面を考えて 1 名 8,000 円としていたが、少し無理があったため、現在は 1 名あたり 13,000 円としている。今後は 15,000 円にしたいと考えている。

＜体験プログラムの内容＞

①着付け	10 分
②日本刀についてのレクチャー	20 分
③素振り（日本刀の扱い方）	20 分
④木刀（反りと鎬）の使い方	④と⑤併せて 20 分
⑤撃剣試合	
⑥試斬り（2 本）	20 分
⑦印可状授与（お墨付き）	5～10 分

■参加者層

・欧米、特にアメリカが多い。

体験サイトに登録して外国人を受け入れる場合、体験に参加する地域や国からの比率は、そのサイトの登録者数による。Airbnb の登録比率は不明だが、英語圏の人の登録が多いようで、当会への参加者も欧米の人々、特にアメリカが多いと感じる。

・年齢は 30 歳以下の人々が多い。2019 年ラグビーワールドカップの際はイギリスの 50 歳以上の人の比率が高かった。

・武道レベルは初心者が大半。また自国で居合は習っているが試し斬りはしたことがない、という外国人もいる。

・当会の体験をメインにというよりも、日本観光の中での楽しみの一つとして当会に参加する人が多い。

1 回目の参加と同じ滞在期間中に 2 度目の参加をするリピーターも見られる。そうした人たちに向けては異なるプログラムを提供する。そのプログラムを考える労力はそれほど大きなものではない。

■当会への参加理由（選ばれる理由）

＜「本物」の体験＞

・体験紹介サイトでは、「居合」「撃剣」「試し斬り」の 3 つをアピールしている。海外で試せる機会が少なく外国人の興味が大きいと感じたことに加え、これらについては日本でも「本物」を体験できる機会が少ないことが理由。服装もカラフルな浴衣や踊りで使う袴などではなく、稽古着を使用している。実際、参加者に当会を選んだ理由を尋ねると「本物を教えてもらえると思ったから」という回答がほぼ全員である。

＜立地面＞

・地方に比べ東京都という立地上のメリットはあると感じる。ただ、東京都のなかで町田は特別有利ではなく、浅草などであればもっと多くの来館があると思う。

千葉県の野田市に武神館という忍者の総本山があり、そこは東京から遠くても多くの外国人が訪れているようだ。そうしたネームバリューが付けば遠くても来るだろう。

■参加者に喜ばれること

＜おもてなし＞

・外国人は「自分のことを気にかけてくれている」と感じると喜ぶ。具体的には「目を合わせてあげる」「手を取って具体的に教えてあげる」など。こうした「おもてなし」を大事にしている。

・そのほか、神棚など道場内の設備や備品で喜んでいるものもあるかもしれないが、具体的にそうした話をしたことはない。

＜試し斬り＞
・試し斬りは特に喜ばれる。
外国人は「この人はすごい」と感じると、より素直に興味を持って話を聞くようになる。言葉でいうと、「目の色が変わる」。特に参加者の目の色が変わることが多いのは、主催者が藁を切る試し斬りのデモンストレーションの時。

＜サプライズ体験＞
・一通りプログラムの内容を終えた後に、サービスとして外国人にサプライズ体験を提供している。参加者に力を入れさせて倒れづらい態勢にさせたうえで、体術を用いてそれほど力を入れずに倒したりすると外国人は驚くと同時に喜ぶ。

■武道体験のほかに喜ばれたこと

・外国人によく聞かれることは美味しい食事ができる場所。観光名所は来日前に調べていてそれなりに知っている模様。

・道場のあるビルの 1 階は自身の師匠が経営する居合用品店があり、行きたい参加者は行っているが特別多くはない。扱っている刀が本物なので購入してもすぐに外国に持ち出せない。ＥＭＳの手続きが必要で、手元に届くのはそこから 2 か月後になってしまうことも理由かと思う。
また、基本的に用品店に迷惑をかけてはいけないので、紹介はするが、自身が積極的に連れていくことはしていない。

【３．外国人受入による施設側のメリット】

■当初期待していたメリット

・メリットよりも、体験プログラム提供を生業とするためにどのように集客するかを考えていた。それは、どうしたら喜んでもらえるかということ。

■外国人受入による気づき

・コロナで集客できていない現状、「本物」を伝えなければいけないと改めて感じる。
間違ったことを外国人が体験し、自国に帰ってからそれが正しいものではなかったと気づいたらその外国人にとっても気の毒である。

【４．インバウンド等受入に当たっての課題】

■コミュニケーションについて

・自身の英語は片言だが、経験上、「先生」と呼ばれる人は流暢であるよりも片言の方が威厳が増す気がする。外国人は日本に習いに来ているので、英語が変でも気にしないし、何とか理解しようとしてくれる。
英語を話せるアシスタントもいるが、そのアシスタントに通訳してもらおうとすると、どうしても自身がそちらを見てしまう。ワンクッション入ることで間延びしてしまう。それより、片言でも外国人に向かって直接伝えようとする方が喜んでくれる。
細かい説明においては伝わらないこともあるが、どうしても難しければスマートフォンの翻訳アプリを使えば翻訳できるので、それを使うようにしている。が、実際にスマートフォンを使用した経験はほとんどない。武道ならではのマニアックな言葉は翻訳アプリでも訳せないこともある。

・通訳を介した方が良さそうに思われるが、直接参加者に向かって話すことが重要だと思う。また、武道特有の言葉、例えば柔道の「はじめ」「やめ」などを「start」「stop」にしたりするとおかしくなる。このように本来の武道の専門用語をそのまま使った方が良い場合もあるし、日本のものであれば日本語を使うことが重要である。

■日本人との違い

＜サイズの大きい衣服の用意＞
・外国人は想像を超える体形の人が来る可能性があるので特大サイズの稽古着はあったほうが良い。これまでに身体が入らないことはなかったが相当窮屈に着てもらったことが何度かある。
また、ウエストサイズが大きくて袴の紐を結べないことがあるので、着物用ではない紐を使って何とか結んだことがある。

＜日本文化への関心の違い＞
・日本人は日本に住んでいるが故、日本文化への関心が薄いように感じる。逆に外国人は「日本へのあこがれ」のようなものがある。アニメやコスプレ等に見られるように本家本元が日本であることが原因かと思う。サムライや武道も日本固有のコンテンツであり、その本場で実際に体験してみたいという気持ちは日本人とは比べものにならない。

■参加者の地域や国による違い

・「サムライ体験」という共通の興味を持って来るので、特に違いはない。提供するサービスは同じで変える必要もない。

■トラブル

＜ケガ＞
・当会ではこれまでケガの発生はない。刀で床を傷つけることも多々あるが、市販のバスマットを敷くなどして対応している。
長年の経験でケガをするパターンが分かっているので、ケガをすることを、そもそもさ

せなければ良い。サムライ体験で言えば刀を鞘に入れることが難しく、鞘を持つ手の親指と人差し指の間の水かきに刀が当たって切るなどのケガをしてしまう。そのため、本物の刀の場合は鞘を渡さずに刀だけ渡すようにした。その結果、鞘に刀を入れる時間もかからなくなったと同時にケガをする危険が全くなくなった。ただ、刀を鞘に入れるという行為も外国人の体験したいことなので、それは模擬刀を使用して体験してもらっている。

居合道の施設で模擬刀がないことはあり得ないのだが、振ってよい模擬刀と振っていけない模擬刀がある。振ってはいけない模擬刀は土産用として売っているもの。これは振ると刀の部分が飛んでしまいケガをする可能性がある。実際に新聞の記事になったが、劇団でお土産用の模擬刀で振った結果、刀の部分が飛んで人に当たって死人が出ている。

＜保険＞

・傷害保険と責任賠償保険へ加入している。ケガだけでなく、コロナで感染が発生した場合の消毒費用などにも対応できる。

自身が加入しているので、参加者からは保険料は徴収しない。保険料は年間 1~2 万円。

＜危険な行動の制止＞

・外国人は試し斬りを喜ぶが、参加者本人に体験させるのは上から下の斜め切りのみ。上から下に斬る際は、刀が床にあたって傷をつけることはあってもケガをするまでには至らない。しかし、下から上に切る動作は下から上は勢いがついて自分の頭を切ってしまいケガどころか命を落とす可能性がある。参加者によってはこうした「してはいけない」と言ったことをしてしまうので、プログラムを進める中でそうした行動をしそうな参加者を見極めて危険な行為を止めることも重要であり、かつ何度も注意喚起をしている。

＜着付に時間を要する＞

・稽古着を着る際に特に時間がかかる。旅行会社からの依頼で 30 人程度の団体を受け入れた際、30 人の着付けにアシスタントも含めて 4 人がかりで 40 分かかったことがある。

着方を分かっていないこともあるが、着物に対する興味が大きいようで、事前に名前とサイズを聞いて揃えていたのだが、他の参加者の着物に興味を持って手に取るうちに、どれが誰のものだが分からなくなってしまい、もう一度揃えるのに時間を要した。

■施設について
・当館は天井が特別高くないので、振りかぶった際に刀が天井に当たることがあるので、高いに越したことはない。
■最初は課題であったが経験をしている中で解消された課題
・外国人に英語で説明する場合、動作などの決まった言葉について徐々に覚えていくことができた。複数の参加者がいるときに自身が間違った英語を使用しても、真意を理解した参加者が他の参加者に正しい英語で伝えなおしてくれる時がある。その際に言葉を覚えていくなど、経験を積みながら必要な英語を覚えていくことができる。 そのため、英語が話せなくても、どうにかなるし、やることが重要である。
■今後の課題
・集客が課題。収入源なのでコロナのような突発的なことがあると厳しい。試し斬りは刀を使って斬ってもらわないと本物を体験できないので、オンラインプログラムは今は考えていない。とにかくコロナが終息して外国人が日本に来ることのできる環境に戻ってもらいたい。 ・内容のブラッシュアップは考えているが、これまで数年続けて確立できた部分もあるため、今までのプログラムを基本としつつ、プランの種類を増やすことを考えている。 また補助をしてくれる人材（インストラクター）の育成も課題である。

【５．その他】

■旅行会社などへの要望
・旅行会社が受け入れ窓口になったこともある。旅行会社経由の場合は 1 回あたり 30 人～60 人など人数が多いので回数が増えればありがたい。 当道場は 1 回 10 人が最大なので、旅行会社経由で多数を受け入れる際は別の場所を借りて行った。
■インバウンド等の集客について
・世界から集客するのであればネットを使わないわけにはいかない。これまでに外国人を受け入れたことがない施設においては、集客方法が分からないことが理由かもしれないが、そうした施設としても、今後トリップアドバイザーや Airbnb のような体験紹介サイトの存在を知れば、そうしたサイトを利用して外国人を集客しようとするケースもあるだろう。 ただ、そうしたサイトはレビューの多さ順に紹介されるようで、当会への参加者が増えたのも、サイトでのレビュー数が増えたことと関係があるかもしれない。そのため、新しくサイトに登録した施設にとってはレビュー数を増やすことが課題となるだろう。 ・そのほか、立地条件は重要。自身のサムライ体験で言えばやはり利便性の高い都内。さらにサムライとイメージの結びつき安い京都など。他の武道についても沖縄の空手など本場であれば別だが、その武道と縁のない地方で集客しようとすると難しいので、それは施設にとっての課題となりそう。

武修館剣道場

【施設概要】

体験可能な武道	剣道
所在地	静岡県三島市若松町 4381
ホームページ	https://bushukan1.jimdofree.com/
外国人受入実績	1970 年頃より欧米、南米、アジアなど多様な国から年間数人程度を受け入れ

【外観】

【内観】

【内観】

【内観】

【三島大社】

【1. 外国人受入当初について】

■外国人の受入開始時期
・1970 年ごろから
■背景
・館長が社会に対して何ができるか思案していた時に、自身ができることは剣道だと考えていた際に、「日本に来ていたついで」かもしれないが当道場で稽古をしてみたいというイギリス人を受け入れ、それから太陽な外国人を受け入れるようになった。

【2. 体験プログラムについて】

■体験プログラムの内容
・一見さんには、「一回きり」だと思って対応をする。一方、常連になる人についてはその方向けの対応をするため、内容は全く異なる。 一見さん対応の場合は、まず裸足で雑巾がけをしてもらう。自身の国とは異なるその独特の空気感が、最初の驚きにつながる。
■参加者層
・イギリス、アメリカ、南米、韓国など多様な国から受け入れ経験あり。
■参加者に喜ばれること
＜精神性の体験＞ ・来館した外国人は施設に感動することが多い。また、京都や奈良などの仏教文化に興味があるためかもしれないが、禅などをしてもらうととても興味深そうに行おうとする。そうした精神性の体験を日本ならではのものと感じるのではないか。 履物を揃えるところから含めて礼儀作法をしっかり教わることを、外国人は喜ぶ。日本の文化と生活を体験したいということだと思うし、そうした体験をさせてあげることが武道ツーリズムに必要なことではないかとも考える。 面の打ち方を教えたりするなど「体育館」でもできることではなく、武道場という施設で精神性を教えることが体験価値の向上につながるのではないか。そうした意味で武道専用道場だからこそできる教えを大切にしている。
■武道体験のほかに喜ばれたこと
＜日本文化への興味＞ ・漢字文化に興味を持ち、自分の名前を漢字で書けるのかと尋ねる外国人が多い。当て字で紙に筆で漢字を書いて渡してあげるとすごく喜ぶし、とても良いお土産にもなる。 日本には四文字熟語やことわざなどが多く残っているが、そうした言葉の意味を教えてあげたりもしている。日本に来てもそのような言葉に触れる機会は武道施設にくるなどしないと体験することは難しいと思う。

また、印鑑も喜ぶ。海外はサイン文化なので印鑑のことを知らないが、印鑑を押す姿を見せるととても興味を持つ。旅行者の当て字の名前の印鑑をあげればとても喜ぶので、これも武道ツーリズムのいいお土産になるのではないか。当館で印鑑事業者を紹介することもできる。
ただ、こちらで用意する場合、来てから名前を聞いて渡すことは時間的に難しい。事前に参加者の名前を教えてもらい、当て字を考えて印鑑を作っておくということであれば準備をできる。
そうした「思いがけない体験」という付加価値があると、より喜んで帰ってもらえるのではないか。

【３．外国人受入による施設側のメリット】

■外国人受け入れのメリット

＜道場の活性化＞

・外国人が来館すると道場が活気づく。時代が進んで外国人に慣れている人も多くなっているだろうが、まだ外国人が物珍しいと思う人は多い。ただ、道場生は同じ施設内で稽古をすることによって、彼らのことを、より身近な仲間と感じるようだ。

＜小学生にとって生きた英語学習の場＞

・近年は、小学生も低学年から英語教育を受けている。当道場で外国人と混じって稽古を行っていた小学生が、稽古の終わりに英語で会話をしたり質問をしたりしているところを見ると、とても良いことだと思う。一部の小学生のそうした姿を見ると、他の子供たちも「次は自分も」と思うようで、そうした様子を見ると受け入れて良かったと感じる。

【４．インバウンド等受入に当たっての課題】

■コミュニケーションについて

・当道場の門下生には英語を話せる人も多く、英語でのコミュニケーションについて戸惑うことはない。また、道場近くの小学校では英語教育もしているため、当館に通う小学校には 3～4 年生くらいでも英語を話せる子供もいる。

・面小手胴をやるだけでは、やったつもりになることはできるがそれだけで終わり。武道を通して日本人の精神性を知り、当道場に来たことによる高い体験価値をもって帰ってもらいたいと思うが、その精神性を伝えるために必ず英語が必要かというとそうでもない。身振り手振りで伝えても理解してもらえることは多い。

■参加者の地域や国による違い

・国によって武道に対する興味やイメージは大きく異なると感じる。
また、政治や時事問題については話題にしないほうが良い。

■トラブル

・これまでにトラブルは特にない。剣道をしていれば打撲をしたり、竹刀の束がざらざらしているため持っているうちにマメができることもあるが、ケガというケガはない。
・自分はケガをしなくても周りの人をケガさせることもあるため、竹刀のまちがった扱い方などしないようにするなど、重々注意するように伝える。
ケガをさせないで帰すことは受け入れる側の責任と考えて細心の注意を払っている。

・外国人がきたことで嫌な経験は特にない。自ら希望して武道に対する意欲や意志を持って来る人が多いので、教える側としては対応も楽である。

【５．その他】

■旅行会社などへの要望

・これまで旅行会社を通したインバウンド客を受け入れた経験はないが、今後は相談してもらえれば受け入れも可能。
受入れるにあたって事前に知りたいことは、まず何を求めているか。具体的に何をしたいか分かると、喜びを以て帰ってもらえるような対応をできると思う。
また、こういうご時世なので新型コロナウイルスのワクチン接種証明や既往歴なども教えてもらいたい。可能な限り協力したいが、万が一病気が発生してしまうと、地域の剣道連盟や県の剣道連盟に報告するなどさまざまな事後対応が必要となる。
・駐車場には大型バスも停められるため 30～40 名でも受け入れ可能。
・用具や用品関係で準備してもらいたいもの特にない。初心者は何も持っていないはずである。

＜旅行会社からのインバウンド客を受け入れる際の料金設定について＞
・武道体験をサービスとして提供する際には費用をもらうことが当たり前であると思うが、外国人の体験についてお金をとらないケースが多い。これが武道の現状であるが、良いことではない。その意味で旅行会社が入って最初から料金設定をすることはとても良いことである。
実技指導 1 時間、名前を書くなどの体験 1 時間の計 2 時間にお土産の印鑑と手ぬぐいもつけるなどして十分な満足感を与えることができれば 1 人 1 万円でも高くないと思う。

合気道萬葉塾

【施設概要】

体験可能な武道	合気道・居合道
所在地	奈良県橿原市今井町 3-10-58
ホームページ	http://aikido.boy.jp/info/
外国人受入実績	・地域の知人からの依頼で 2017 年頃より合気道を体験したい外国人を受け入れ。 ・これまでにカザフスタン、ベトナム、台湾、韓国からの体験希望者を受け入れている。

【外観】

【道場内】

【備品】

【木刀】

【体験の様子】

【1. 外国人受入当初について】

■外国人の受入開始時期
2017 年ごろ
■背景
・「一般社団法人　日本の寺子屋」の植田和男理事長から、カザフスタンで合気道に興味を持っている人たちがいるので受け入れてくれないかと言われたのが最初。

【2．体験プログラムについて】

■体験プログラムの内容
・受入は誰でも時間が合えばいつでも可能。道場の稽古は夜間であるため、朝・昼などそれ以外の時間であれば対応できる。 自身の師匠がいろいろな国の人を受け入れていたこともあるので、礼儀作法を重んじる人であれば受け入れる方針。 ・稽古は基本的に当道場で行うが、人数が多くて当道場できないときは、公民館の講堂を借りることもある。 ただ、ベトナムから 36 人を受け入れたことがあるが、それは当道場で行った。限られたスペースの中でもやりようはある。 ＜体験内容＞ ・時間は 1 時間半～2 時間だが、内容は先方の要望を受けて柔軟に対応しているため毎回異なる。例えばカザフスタンからは 3 回受け入れたが、そのすべて回に参加する人がいたため、稽古内容のレベルなどを変えた。 ・体験の最初は武道で一番大事な礼儀作法。道場は神聖な場所なのでどのような気持ちで正座をして、あるいは怪我をしないように、などの気持ちで道場の神棚に向かって礼をしてもらう。また、お互いの気遣いでもあるので重要。10 分程度の時間をかけている。 ・その後に護身法。まずは見本を見せて、それをマネしてもらう。 これができない人も多い。力を使わずできるようになるというところまで、20 分程度。 ・さらに、もう少し具体的な身の守り方で 10～15 分程度。 ・その後、合気道の技を 2 人組で稽古して終了となる。 ・特に大事にしているのは、形よりもどのように動けば良いかで、身振りで伝えている。 また、礼儀作法については、その作法をする意味と理由を伝えることが重要。

＜費用＞

・受入費用は１回１団体１万円程度より。
現在のところ人数による違いはなく毎回同じ金額。合気道を理解して世界平和のため広まってもらえればありがたいことなので、儲けようとは考えていない。

■参加者層

・カザフスタン人の他、韓国からも日本の寺子屋の紹介で受け入れ実績がある。
・そのほか、台湾やベトナムなどアジア圏中心に受入実績がある。
・年齢は幅広いが、多いのは 10 代後半～30 代くらいまでの比較的若い人たち。
・訪日の目的は、武道だけではなく保存地区に指定されている今井町の町並みを見たり、橿原神宮を見たりなどもあり、旅行のコンテンツのひとつとして当道場に来ている。
・男女比では半分程度。女性の比率は低くない。力がなくてもできる武道のため、女性も始めやすいのではないか。

＜2017～2020　国別受入実績＞

国	人数
カザフスタン	42
ベトナム	62
台湾	6
韓国	2
合計	112

出所；合気道萬葉塾

このほか、韓国全州市から 7 名の教育関係者が居合道を体験

■参加者に喜ばれること

・合気道は柔らかな動きで力を入れないにもかかわらず相手が倒れるので、それがすごいと思われる。
ただ、技よりも武道を通した異国での人と人との触れあいがうれしいのではないか。そのため、日本人の心を学んでもらえたらと思っている。日本発祥の武道であれば、武道の種別を問わず喜んでもらえるのではないか。

・合気道を経験すると、合気道の技が本当にできるようになるのか、その難しさを感じる。身体が大きかったり、力があるからというものではないが、その難しさがのめり込む理由となることが多い。

・道場内の木刀に興味がある人も多いようで、木刀を使って何か教えてほしいと言われることがある。師範は居合道もしているので、合気道の刀を使った内容というよりは居合道寄りの内容となるが、要望に応え教えている。

■武道体験のほかに喜ばれたこと

・観光。そもそも外国人は当館のある今井町を散策しに来るケースが多い。そのため、当館にも観光の一コンテンツとして来館する。
また、橿原市には畝傍山・香具山・耳成山の大和三山がある。畝傍山麓には神武天皇の御陵。畝傍山と香具山・耳成山の中間に藤原京跡がある。あとは橿原神宮、飛鳥村、法隆寺などもあり観光スポットは豊富。

【３．外国人受入による施設側のメリット】

■メリット

・外国人の知り合いができたこと。日本に来ていた外国人が来日中に合気道に興味を持って通うようになり、母国に帰国してからも合気道を続けて指導者となり、自身とつながりが続いているケースもある。
言葉も分からないが、来てもらえると嬉しい。コロナで外国人が来られなくなってしまった今は寂しさを感じるほどである。

【４．インバウンド等受入に当たっての課題】

■コミュニケーションについて

・団体の通訳がいる場合に礼儀作法などを通訳して伝えてもらっていたが、自身の身振り手振りでもそれなりに伝わる。

・合気道の言葉の意味をそのまま伝えることのできる言葉は外国語にない。そのため、説明の大半を日本語でしているが、一定程度理解してもらえている。
専門用語は技の名前程度であるため、外国語を話せなくても特に問題はない。

・通訳の有無でやり方を変える必要もない。自分が動き、身体の表現で伝えることが重要。また、そもそも通訳がいることのメリットが大きいか分からない。自身の伝えたいことが正確に伝わっているかどうかわからないため。全てを通訳してもらうわけでもなく、生徒が疑問を持った場合に通訳に尋ねている感じはあるが、通訳がいない場合でも外国人は指導者の手をとって教えてくれと直接言ってくる。

・外国人は、強いか弱いかで指導者を見ている。指導者が強いと分かれば話をよく聞くようになる。

■外国人ならではの難しさ

・特にない。やってみればどうにかなる。

■トラブル

＜トラブルの有無＞

・ケガなどのトラブルはない。気を付けていれば大丈夫。
ただ、カザフスタン人にとって日本の夏は暑かったようだ。冷房を入れているのだが、その前に立って涼しんでいる人がいた。日本の気候に合わない人もいるかもしれないので体調を崩さないように気を配ることは必要と感じる。

＜保険＞

・当会では一時的な外国人対応の保険加入はしていない。

【５．その他】

■旅行会社などへの要望

・特にない。旅行会社の要望優先で良い。時間さえ調整できればよい。
・ただ、当館のある橿原市は日本遺産の今井町があり、大和八木駅からバスで橿原神宮、藤原京などを回る周遊などできると喜ばれると思われる。今井町を見て回ると最低 2 時間はかかる。橿原市の良さは 2 日以内では楽しみきれないほどあり、さらに奈良県全体であれば 1 週間や 10 日は楽しめる。

■インバウンド等の集客について

・武道だけ、あるいは武道をメインにしたツーリズムは難しいと感じる。武道だけでなく日本の文化・伝統を楽しんでもらうなかでのひとつのコンテンツということになるのではないか。
これまでの当会のリピーターが何を目的にリピートしているのかは不明であるが、1 週間来る人は、やはり武道だけでなく観光も楽しみたいだろう。そういう意味で観光施設との協力が必要と考えている。

川上村武道場

【施設概要】

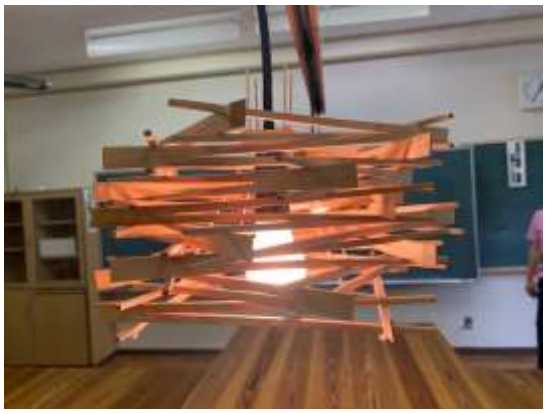
体験可能な武道	剣道
所在地	奈良県吉野郡川上村北和田 134
ホームページ	
外国人受入実績	・1990 年ごろより、指導者の個人の縁でフランス人剣道家を受入。 ・2005 年以降は欧州各国の剣道家を年に数十人ずつ程度受入。

【川上村】

【旧小学校】

【体育館をリニューアルした武道場】

【校舎をリニューアルしたセミナーハウス①】



【校舎をリニューアルしたセミナーハウス②】

【1. 外国人受入当初について】

■外国人の受入開始時期
1990 年頃より
■背景
＜外国人が川上村に来るようになったきっかけ＞ ・現在、「一般財団法人グリーンパークかわかみ」の理事をしている上垣氏は剣道 8 段の腕前。全日本剣道連盟からの依頼でフランスに 3 か月ほど剣道の指導派遣として赴いた。その後、指導したフランス人が上垣氏の指導をさらに受けたいという理由で川上村を訪れるようになった。最初は数人の来村であったが、その後に仲間が増えて 20 人程度が訪れるようになった。

【２．体験プログラムについて】

■施設について
＜川上村武道場（廃校となった小学校の体育館）＞ ・川上村武道場は 20 年前に廃校となった小学校の体育館をリニューアルした施設。 村内には大滝公会堂という近代和風建築物があり、そこで剣道が行われていたのだが、コロナ感染拡大に伴い密を避けることのできる広い場所として、現在は川上村武道場で日々の稽古や合宿が行われている。 当武道場では村内最大行事の剣道交流大会が毎年行われているが、近年は村の人口と同程度の 1,200 人が県内外から集まるほどにまでなった。村内物産の販売も含めた村の活性化と青少年の健全育成に寄与する大会となっている。このように川上村における武道の拠点となっているのが川上村武道場である。 ・また、廃校となった小学校の校舎は現在、宿泊のできるセミナーハウスとなっている。 村の施策である官学共同事業として大阪工業大などを運営する常翔学園と村が提携し、夏などに学生が学習をできる施設として改装したもの。完成後、学生はこの施設で宿泊をしながら、電気で走る自転車や電気自動車を作るなどの研究をしていた。また、このリニューアルは学生自身がプランから作成まで行い、さらに改装費用も大工大側で負担してもらった。 その代わりに同大の学生が使用する際には宿泊費不要としている。学生利用時には村内の小学生に対する学習指導などの交流も生まれている。 ・剣道を教わるために来日した外国人は、このセミナーハウスに宿泊している。 ・冷暖房設置の教室もあり、季節を問わず利用可能。 ・Wi-fi 設置済み。

＜施設の運営＞

・川上村武道場およびセミナー施設の運営は村の条例に則って運営している。

・体育館を改装した川上村武道場は川上村教育委員会の施設。校舎をリニューアルしたセミナー施設の管理は川上村地域振興課。そのため、使用する場合は地域振興課へ連絡。

＜施設利用料＞

別表第１（第８条関係）

区分＼使用時間	午前 9:00～12:00	午後 13:00～17:00	夜間 18:00～22:00	午前午後 9:00～17:00	午後夜間 13:00～22:00	終日 9:00～22:00
全面使用	1,000 円	1,000 円	2,000 円	2,000 円	3,000 円	4,000 円
部分使用（半面につき）	500 円	500 円	1,000 円	1,000 円	1,500 円	2,000 円

備考

1　使用時間を超えたときの使用料は、１時間（１時間に満たないときは１時間とみなす。）につき、当該使用料の１時間相当額とする。

2　小学生の児童、中学生及び高校生の生徒、大学校の学生並びにこれらに準ずる者が使用する場合における使用料は、当該使用料の２分の１に相当する額とする。

3　村外利用者が使用する場合の使用料は、当該使用料の２倍に相当する額とする。

4　使用料の額に１円未満の端数が生じたときは、その端数金額を切り捨てるものとする。

5　備品その他の使用料については、教育委員会規則で定める。

別表２　付帯施設使用料

	10 人以下	11 人～20 人	21 人～30 人	31 人～50 人	50 人以上
教室等宿泊	１人当り 1,000 円	１人当り 1,000 円	１人当り 1,000 円	１人当り 1,000 円	１人当り 1,000 円
シャワー室	1,000 円	2,500 円	5,000 円	7,500 円	10,000 円

■体験プログラムの内容

＜事前連絡＞

・訪日する際の連絡はメールや電話。

＜1 週間滞在の場合のスケジュール＞

・初日は村内のホテル杉の湯に宿泊。また、最後の日も打ち上げをできるようにホテル杉の湯に宿泊。
杉の湯は過去に川上村に天皇陛下と皇后陛下が来られた際には食事をされた由緒あるホテル。豪華なホテルに泊まる喜びも味わわせてあげたいということでお勧めしている。
宿泊して特に喜ばれるのは食事と温泉。
学校を改装した施設だけの宿泊だけでなく、こうしたホテルに泊まることも喜ぶ。（この宿泊手配は訪日客の代表者に直接手配してもらっている。）
その合間の数日を当武道場に隣接するセミナーハウスでの宿泊とし、メリハリをつけた来村滞在としている。

＜1 日のスケジュール＞
・稽古は毎日午前と午後。ここに来る人たちはレベルに関わらず剣道を一生懸命稽古したいという人が多いため、とにかくしっかりと流汗の行をしてもらう。
・概ね、2 日目以降も同じ内容を繰り返す。武道で上達するためには基本の繰り返しが大事なため。

時間帯	内容
午前（9:30～11:30 頃）	午前中は剣道の基本的な素振り。踏み込みなど基本的な動作で 1 時間程度。その後、剣道具を着装して面打ち等、技の稽古をする。
昼食	
午後（14:00～16:00 頃）	午後はお互いに打ち合う稽古と試合稽古、最後にかかり稽古、打ち込み稽古など「仕上げ」と呼ぶ厳しい稽古をする。仕上げ稽古は厳しいのだが、日本でしっかり稽古をしたという実感を得ることによって帰国した際には大きな自信につながる。

・指導者が複数必要な場合は上垣氏の剣道仲間に依頼する。これまで最大で 4 人くらいに協力してもらった。指導者 1 名につき最大 10 名程度を見ることが可能なため、グループを分けて指導に当たっている。逆に指導者 1 名で 10 名以上を見るとなると十分な指導ができない。

＜セミナーハウス宿泊時の食事について＞
・川上村には「一般社団法人かわかみらいふ」という法人がある。人口減少が進む村の住民生活をサポートする仕組みを検討するなかで設立された団体で、車で移動しながら食材の販売をする「移動スーパー」などを行っている。セミナーハウス付近にはスーパー

がないため、同法人に連絡して食材を持って来てもらい、外国人自らで調理している。また、お酒などもそこで調達し、夜も楽しい時間を過ごしてもらっている。

■参加者層

・前述の通り、当初はフランスからであったが、2005 年以降はフランス以外の国からも来訪するようになった。
フランス、イギリス、ベルギー、ロシア、ハワイを含む米国など欧米が中心。フランス以外の国の人たちも、上垣氏がその国に訪れた際につながったり、その人たちからの紹介などで来るようになったケースが多い。一方、アジアからの来訪はほぼない。
・年齢としては 20～50 代程度まで幅広い。

■参加者に喜ばれること

・ことあるごとに礼儀作法をしっかりするよう指導する。外国人はその礼儀作法を教えてもらえることを喜ぶ。
・また、これまでの稽古では得られなかった新しい日本の発見があるようだ。

■武道体験のほかに喜ばれたこと

＜観光名所の案内＞

・来訪した外国人には川上村で気持ちよく過ごしてもらい、リピーターになってもらいたいと考えていたので剣道の稽古だけでなく観光名所に連れていくなどしたところ喜ばれた。
例えば、バスをチャーターして、午前中に稽古したあと、午後は吉野山、柳生、法隆寺や東大寺、キトラ古墳のある飛鳥村など奈良が誇る観光を案内するが、当村にきている人たちなので自然や文化施設などゆったりと時間の流れを体感できる場所が喜ばれる。
春には吉野山の山桜を見ることのできる場所にも連れていく。吉野山は、下、中、上、奥と 4 地域に分かれ、低い場所から順に山桜が咲いていくため、3 月末から 4 月下旬にかけて楽しむことができる。

＜武道具の購入＞

・日本は剣道具店が充実しているので来日時に用品を購入したい外国人も多い。その場合は県内の武道具店に声をかけ、武道場まで武道具品を持って来てもらうようにしている。
一番買われるのは竹刀。今の竹刀は台湾や中国の竹を使ったものが多いのだが、当施設を訪れる外国人には、国産の真竹で作られた 1 本 12,000 円程度のものが人気。

【３．外国人受入による施設側のメリット】

■外国人の受入によるメリット

・外国人と心のふれあいができることは上垣氏にとっての大きな喜び。だからこそ稽古も厳しく指導するし、そのあとには観光で楽しんでもらうなど精一杯のおもてなしをしている。
・一度来村した人とは、その後もメールで連絡を取り合うなどのつながりが続くこともが多い。それも万感胸に迫るものがある。

■外国人受入による気づき

・剣道に対して真摯な向き合いが素晴らしい。そのため、指導のし甲斐もある。指導にあたって気を付けているのは、とにかく剣道の基本から外れないこと。

【4．インバウンド等受入に当たっての課題】

■コミュニケーションについて

・外国人が来る際は通訳を用意できない。指導者が片言の英語でやり取りしている。

■日本人との違い

・指導内容を理解するのに時間がかかるケースは多い。言葉というよりも文化の違いにより理解しづらい面がある。
・外国人は日本人と異なり、辛いときに我慢しない人もいる。例えば暑さで苦しくなると自分で剣道具を外してしまうなど。ただ、文化の違いもあるので、それを咎めることはしない。

■トラブル

・トラブルというトラブルはない。
トラブルを防ぐためにしていることは体調確認。特に基礎疾患を持っているかどうかを最初に確認し、激しい稽古の場合は見学してもらうなりレベルを落とすなど心がけている。
何かあってからでは楽しい思い出も台無しになり、受け入れる側も心苦しくなるので、お互いに注意を払う。
そのほか、稽古の際には竹刀のささくれ有無など剣道具の点検を確実に行っている。これは外国人に限らず稽古にあたっての基本中の基本。武道における相手への気遣いである。

■受入れ施設等について

・人数が少ない場合は村内の大滝公会堂で稽古を行い、宿泊がセミナーハウスとなる。その施設間は車で 15 分程度。送迎は滞在期間中に最初と最後に泊まることを条件としてホ

テルにお願いしたりしている。
このように、村内の団体や法人がお互いに協力しないと成り立たない。逆に言えば、小さい村であるからこそ共助関係が成り立っていると思う。大きな自治体ではこうした協力関係を気づくことは難しいのではないか。

【５．その他】

■旅行会社などへの要望

・川上村は他の多くの地方自治体と同様、人口減少が進み、藤村は特に将来の消滅自治体とも報道されている。人口流出に歯止めをかけるため、林業立村から観光立村への転換を図ろうとしているなかでインバウンドの受け入れにも注力している。「グリーンパークかわかみ」をはじめ、これまで異なる役割を担っていたいくつかの組織を 2022 年の 4 月に合併して、「一般財団法人　かわかみ源流ツーリズム」とすることが決定するなど受入体制を整備した。

・川上村には大台ケ原という雨量が年間 5,000ｍｍを超える自然もあり、1 週間は十分楽しめる。また、村内にはホテルのほかにコテージなどもあり、訪日客の要望に応じたプラン作成も可能。
これまでは上垣氏とのつながりのある外国人の来日が多かったが、自然豊かな場所で剣道の稽古をしたい外国人がいたらぜひ川上村を検討してもらいたい。

■外国人の受入を検討する武道施設に対して

・滞在費を極力安くすることは重要。特に気軽に泊まれる宿泊施設は大事。
そのほか、稽古場の使いやすさや広さがあるに越したことはない。日本の道場は狭い施設も多いが、新型コロナウイルス感染を予防するソーシャルディスタンス確保のためにも、一定の人数を受け入れようとしたらそれなりの広さは必要。

合気道田辺道場

【施設概要】

体験可能な武道	合気道
所在地	和歌山県田辺市稲成町 798-15
ホームページ	
外国人受入実績	・1988 年より多様な国からの外国人を受入

【内観】

【道場内設備】

【外国人来日時の記念写真】

【1．外国人受入当初について】

■外国人の受入開始時期
・1988 年
■背景
・1988 年に田辺市で開催された世界大会の際に、多くの外国人が市内の高山寺にある植芝盛平氏のお墓参りに訪れた。当道場から遠くないこともあり、その際に受け入れるようになったことがきっかけ。 今でも合気道をしている外国人が来日した際には、開祖者のお墓参りを目的として田辺市に来ることが多い。

【２．体験プログラムについて】

■体験プログラムの内容
＜参加受付＞ ・電話や手紙、メールや SNS などで直接申込を受けることもある。 また、合気会本部から外国人が田辺市に行くので対応を依頼されて受け入れることもある。 そのほか、市の観光協会に合気道をしたいという外国人が来ているという連絡を受けて対応するケースや、高山寺にある盛平氏のお墓参りに来た際に、外国人が来ているという連絡をお寺から受けることもある。そうした連絡を受けた際には観光協会やお墓まで迎えに行って道場まで連れてくる。 ・田辺市は合気道で有名ではあるが、それほど合気道の道場が多いわけではないこともあり、当道場へのこうした依頼は少なくない。 ＜体験プログラムの内容＞ ・受入可能な曜日は月水金と土日。 ・特別な体験プログラムではなく、一般の入門者と一緒に稽古を受けさせている。 ・体験内容は 90 分程度。 ・礼儀作法から始めて技など一連の稽古を行う。 ・料金は受け取っていない。 ・有段者は道着を持参するが、初心者で持っていない場合には道場生のものを貸している。
■参加者層
・合気道は、田辺市で行われた第 10 回の世界大会の際に 100 カ国程度から参加されたほど世界で普及しており、多様な国からの来館がある。その中でも合気道の普及している国からの来日が多く、フランスやイタリア、アメリカが多い。フランスは柔道が有名だが

柔道場は畳の道場が多く、その道場を使用して稽古ができるために合気道をする人も多いのではないか。
・レベルとしては海外で稽古をしている有段者が多いが、初心者が来ることも少なくない。

■当会への参加理由（選ばれる理由）

・五味田代表は合気道創始者である植芝盛平氏の直弟子で、稽古参加者に対しても盛平氏の教えをそのまま教えるので、それが喜ばれる。

■参加者に喜ばれること

・施設については畳が喜ばれる。外国はマット上で稽古をするところも多いため、日本に来て、畳の上での稽古を喜ぶ。
ただ、当施設でもマットを置いてあり、初心者が受け身の練習をする際に使用することはある。
・そのほか、道場の神棚も喜ばれる。神棚に向かって一礼する際も外国人は日本人よりも正しくきれいに礼をする。

■武道体験のほかに喜ばれたこと

・当道場の稽古に参加する外国人も、京都などへの観光の一環として来日することが多い。田辺市にある植芝盛平氏生誕の地やお墓参りの他、隣接する白浜市に連れて行ったりしたところ喜ばれた。
・神社など日本ならではのものが喜ばれる。

【３．外国人受入による施設側のメリット】

■受け入れによるメリット

・当道場に来てくれること自体がうれしい。道場生も喜んでいて、稽古後に食事に行くこともある。居酒屋などに連れて行くとなんでも喜んで食べてくれて、楽しい時間を過ごすことができる。
・帰国後、当道場に来た際に撮影した写真を送ってくれたりすることも嬉しいし、一度、当道場の稽古に参加した外国人が、その後再び来てくれることがある。それは本当に大きな喜びである。

■外国人受入による気づき

・外国人は本当に真面目。来日した際に１週間ずっと練習していることもある。
航空券代など高い費用をかけてわざわざ来るため一生懸命に稽古をする。教える側としても喜びを感じる。

【４．インバウンド等受入に当たっての課題】

■コミュニケーションについて
・言葉はそれほど問題ではない。合気道は言葉で通じなくて動きで見せればわかるし、例えば小手返しなど技の名前は日本語のままで通じる。 ・通訳は知り合いに依頼し、タイミングが合えば協力してもらっている。通訳には合気道をしている人も、していない人もいる。
■トラブル
これまでにケガもなく、トラブルというトラブルはなし。

【５．その他】

■外国人の受入を検討する施設に対して
・まずは礼儀作法を教えること。外国人はとにかく一生懸命覚える。 言葉は問題ではない。

公益財団法人修武館

【施設概要】

体験可能な武道	剣道、なぎなた
所在地	兵庫県伊丹市西台 3 丁目 2-11
ホームページ	https://syubukan.info/
外国人受入実績	・2017 年から中国からの修学旅行生を年に数回 ・体験予約サイト経由で 12 回ほど受入。

【外観】

【内観】

【道場内　神殿】

【道場内　館長室】

【道場内　師範室】

【道場内の各種武具】

【体験の様子】

【1. 外国人受入当初について】

■外国人の受入開始時期
2017 年（平成 29 年）ごろより
■背景
＜団体の受入＞ ・伊丹市内の他の道場から「知り合いの韓国人が武道を体験したがっているのだが、当館では難しいので修武館で受け入れられないか」という問い合わせをもらい、そこで受け入れたのが最初となる。 ・2017 年には、中国の旅行会社から中学校の修学旅行生に武道を体験させたいという要望があり、夏休みに 2 回、それぞれ 40 人程度を受け入れた。そうした情報が中国国内の関係者の間で伝わったことで、2018 年には問い合わせが増え、修学旅行生を 4 回、計 160 人程度受け入れた。 中国では、良い体験情報は旅行関係者の間で伝わりやすいようだ。特に、中国のバスガイドにはフリーランスの人がいて、その人が良いと思うと知り合いに紹介してくれるようなので、当館の情報についても修学旅行生と一緒に来たバスガイドの情報が広まったものと見られる。 2019 年はさらに問い合わせが増えて、調整がつかず断らざるを得ないこともあったほど。しかし、2020 年からはコロナのため受入ることができていない。 なお、修学旅行生の受入はすべて剣道。 ＜個人の受入＞ ・2018 年、伊丹市が市内へのインバウンド呼び込みのため、アトラクティブジャパンと提携して日本文化の体験プランを販売した。そこでは、茶道や鏡開きとともになぎなたと剣道の体験を打ち出したのだが、そこで当館も携わることとなった。 伊丹市としては、昨年、伊丹市は灘五郷が世界遺産となったこともあり、文化とお酒と、なぎなたを合わせて打ち出そうとしていた。 市内に多くのなぎなた施設があるわけではないが、当館のような私設の武道場らしい武道場は他地域にも少ないため、そうした施設を活かしたいことが理由であったと思われる。 また、当館のなぎなたは「天道流」という流派なのだが、館長である木村女史は天道流の宗家で、トップから本物を教えてもらえることが外国人にとっても魅力的であると考えて、伊丹市は当館とタイアップしてなぎなたを売り出したいと思っているのではないか。 ただ、アトラクティブジャパンからの申し込みはこれまでに 12 組ほど受け入れたのだが、それはすべて剣道でなぎなたの受入はこれまで 1 回もない。なぜかなぎなたに対する反応がない。興味や体験してみたいと思ってもらえるような PR 施策が

まだ不足しているのかもしれない。
それでもなぎなたには可能性を感じる。柔道や剣道と比べるとマイナーではあるが、外国で稽古に励んでいる人も多いため。鎖鎌（くさりがま）を使うなど多様な型があり、演武としても魅力的なので、「する体験」だけでなく「観る体験」プログラムの可能性も大きいと感じる。
※なぎなたは女性の武道というイメージはあるが、海外では男性が多くしている。
なぎなたの普及している国としてはフランスが多い。

＜その他（行政との付き合いによる受入）＞
・アトラクティブジャパンからの申込ではないが、行政関係からの依頼でなぎなたの体験モニターを台湾から受け入れたことはある。

【２．体験プログラムについて】

■体験プログラムの内容

＜団体は旅行会社経由、個人は体験予約サイトからの申込＞
・上述の通り、外国人の受入はインターネットサイト（アトラクティブジャパン）からの申し込みと、旅行会社経由との 2 通り。旅行会社経由は団体で、インターネットサイトは個人。

＜予約体験サイトから申込の場合の内容＞
・アトラクティブジャパンからの申込の場合は、体験専用プログラムではなく、当館の通常稽古への参加を受け付ける形でとしている。一般稽古と別にそのための時間を設けることが難しかったことが理由。

＜旅行会社経由の場合の体験プログラム＞
・旅行会社経由の団体の場合は専用のプログラムとしている。
最初は礼儀作法などの説明、道具の名前や歴史に関する説明。ただ、説明が長すぎると飽きてしまうかもしれないため、それほど長くならないように注意している。
そのあと、剣道であれば実際に打つのを 15～20 分程度。基本的に武道をしたことがない人たちがくるので面や小手を打つまでで時間いっぱいとなる。限られた時間で試合まで行うことは難しい。
・プログラムは個人も団体も 90 分。

■参加者層

・受入として多いのは中国の中学校の修学旅行生。

■当会への参加理由（選ばれる理由）

＜指導者の質＞

・体験者からは指導者の指導力を高く評価されている。限られた時間のなかで、訪日外国人の方が達成感を感じるレベルまで引き上げることができる。そうした意味でポイントは「指導力」。指導力のある人は、当然、コミュニケーション力も高く、満足してもらえる可能性は大きくなる。

＜施設の魅力＞

・口コミで広がる当館の良いところは、武道専用施設という施設面が大きいのではないか。モニターで来た人たちからは、他の観光施設に行ってから来ることも多いが、そうした施設に行かず、当施設での体験だけでも良かったと言われることも多い。

＜バスの駐車可＞

・当施設の駐車場はバスが止められるため、団体のお客様にとって大きいと思う。修学旅行生はバスで来るので、それが当施設を選ぶ理由のひとつかもしれない。

■参加者に喜ばれること

＜体験の内容＞

・そもそも、一緒に体を動かしながら稽古をすることが楽しいのではないか。

・モノでは、袴の着用を喜ぶ。日本らしさを感じるようだ。
本来は上着と袴セットであればベストだが、時間がないときは袴だけの着用でも喜ばれる。

・神殿の前で構えているところをカメラで撮ってあげたり、最後に名前を入れた体験終了証を授与するなどのサービスをしており、これも喜ばれる。

＜備品＞

・道場内の神殿やなぎなたの真剣が喜ばれる。ただ、外国人は予期せぬ行動をする人がいるため注意して見せる必要がある。

＜体験後＞

・外国の人は施設や道場のホームページ、ＳＮＳ等に体験の様子をあげてもらえればうれしいのではないか。それもひとつのアフターサービスとなる。

■武道体験のほかに喜ばれたこと

＜食事処の紹介＞

・食事について良いところがないかよく聞かれる。その場合、近くの酒蔵をリニューアルして作った食事処を紹介している。広くてバスも駐車可能なため、紹介すると喜ばれる。

【３．外国人受入による施設側のメリット】

■受け入れによる派生効果

・なぎなたの場合はこれまで行政関係の体験モニターの受入のみだが、通常の稽古参加者いろいろと手伝ってくれる。そうした会員による協力を得られることにうれしさを感じるが、そうしたボランティアのように好意での手伝いに頼ることも良くないとも感じている。

・体験参加者と SNS などで挨拶程度のやりとりをすることはある。また、体験で楽しかったこととして SNS で発信してくれることには喜びを感じる。

【４．インバウンド等受入に当たっての課題】

■コミュニケーションについて

・指導者は英語を流暢に話すわけではなく、体験者も日本語は話せないが、問題ない。
片言の英語で伝えようとするが、その方が日本の文化に飛び込んで行くような感覚で楽しんでもらえている面があると感じる。
・当館の指導者は中国の修学旅行生を通じて中国語を少しずつ覚えてもいるが、中国の子供たちは流暢に英語を話す。日本に来ている時点で裕福で勉学のレベルも高い人が多いようだ。
・また、中国人の場合は漢字を書いて見せると伝わることも多い。

■トラブル

・ケガも含めて過去にトラブルはない。
ただ、現在は明確なルールを設けていないので、今後に向けてルールをもう少し整備する必要があるかと感じている。何かあったら楽しく帰ってもらうこともできないので。
いろいろなトラブルが起きないよう、個人での直接申し込みは受け付けておらず、アトラクティブジャパンを通した申込のみとしている。

・当館での障害保険受け付けはなし。

■今後の課題

＜プログラムの課題＞

・先述の通り、アトラクティブジャパンの場合は、通常の稽古に参加させる形をとっていた。臨場感があってよいと思っていたのだが、通常の稽古参加者にとっては迷惑かもしれない。そのため、通常稽古に交じってもらう形はやめるかもしれず、その場合はプログラムの内容を変える必要がある。

＜価格設定＞

・修学旅行など団体の場合、「道着・袴の貸与（洗濯料金込み）、証書、当館のグッズ（手ぬぐい、ファイル）、指導料を含めて 1,000 円の設定にしていた。インバウンドを事業としておらず価格設定がよく分かっていなかったこともあるが、あまりに厳しいためコロナでストップする直前に値上げをして 2,000 円にしたのだが、それでも厳しかった。事業として継続するために、今後は団体受付もアトラクティブジャパンを通した申込も税込 5,500 円とすることを検討中。

現在、来館した外国人に道着・袴を貸しているが、それをあらかじめ注文を受けて名前を入れて用意しておけば、お土産にもなるし価格設定の根拠になる。さらに言えば、用品店さんへも貢献できるというメリットもある。

当館もそうだが、武道業界はお金を得ることに対する意識が低い。継続するためにも運転資金は重要。当館は私設道場なので、特にそういうところは大事なのにそれができていなかった。それではよくないし、変えていく必要のあるところ。

＜受入態勢の準備＞

・当道場は私設道場なので維持も簡単ではない。特にコロナになってから稽古が減って収入も減っている。1000 ㎡以上の施設であれば 1 日 20 万円が支給されるのだが、当館は 880 ㎡でその支給金を受け取れない。そうしたなかで収入面から考えてもインバウンドには注力していかなければいけないと考えているが、いざ本格的に受け入れようと思うと準備すべきことは多い。コロナで訪日客を受け入れらない間にホームページ作成、受け入れのスキーム構築といった準備をしている。

ホームページ作成については、兵庫県のツーリズム貢献事業に対する助成金制度があったので、その制度を利用して日本語版と英語版のホームページ、外国人向けのパンフレットを作成したが、さらに改良を進めているところ。

＜指導時の悩み＞

・指導する際に、腰など身体を触る方が教えやすいのだが、身体に触れられることに対して外国人がどう感じるのか分からず、触って良いのか迷う。

＜今後の方針＞

・今後は修学旅行など直接の申し込みがメインとなる。

・当館としてインバウンド体験拡大していくためには、武道専用施設であることの魅力を打ち出すべきと感じている。

・本物の武道を教えてほしい人たちに来てもらいたいと考えており、「礼に始まり礼に終わる」をテーマとして厳しい面を楽しんでもらえるようにしていきたが、そのための具体的な施策を検討中。

【５．その他】

■外国人の受入を検討する施設に対して

・外国語を話せなくても問題ない。

・どの道場にもルールがあると思われる、お互いが気持ちよく時間を過ごすためにも、それをあらかじめ伝えておいた方が良い。旅行会社を通す場合にはそこから参加者に事前周知してもらうことが必要だろう。

錬志会館

【施設概要】

体験可能な武道	空手
所在地	福岡県糟屋郡須恵町上須恵 952－2
ホームページ	https://renshikaikan.com/
外国人受入実績	2010 年ころより、福岡市とアジアとの交流で来日する外国人小学生を預かるホスト家庭からの依頼で受け入れている。

【外観】

【内観】

【各種空手用具】

【1．外国人受入当初について】

■外国人の受入開始時期
・2010 年ごろより
■背景
・福岡市とアジアとの交流で日本に来ている外国人小学生を受け入れるホスト家庭からの依頼で受け入れるようになった。道場に通う子供たちに国際感覚を身に着けてもらいたいという願いもあったので、声をかけてもらった際は喜んで受け入れた。

【２．体験プログラムについて】

■体験プログラムの内容
＜受け入れ人数＞ ・1 回あたりの受け入れ人数は 15 人くらいまでなら。それ以上になると近くの体育館を借 りている。 ＜プログラムの内容＞ ・時間は 1～1 時間半程度。最初に 20 分程度演武を見てもらう。未経験者ばかりのため、最初に有段者の演武や試し割り、バット折などを見せると驚かれる。その後に、参加者に対してミット打ちの体験のほか、突きや蹴りを教える。 ・時間があれば稽古のあとに道場の門下生と体験参加者との間でコミュニケーションを図る時間をとるようにしている。 ＜費用＞ ・費用は受けとっていない。子供たちの経験のためにも良いと思い、当館としても喜んで受け入れていたため。 ただ、このために指導者に時間を確保してもらう必要がある場合は、そのお礼を払うためにも費用を受け取る必要があるとも考えている。
■参加者層
・アメリカや韓国の学生。 ・旅行会社からの依頼による受け入れ経験はなし。
■参加者に喜ばれること
・バット折や試し割を見せると喜ばれる。子供たちは自分もやりたいと言うが、ある程度の経験が必要のため、短期参加の初心者にさせることはできない。

【３．外国人受入による施設側のメリット】

■当初期待していたメリット
・受け入れて嫌なことはこれまでにない。当道場に通う子供たちが世界の子供たちと触れる良い機会であるし、実際に「また来てほしい」と言うなど喜んでいる。 また、外国の子供と一緒に稽古をした子供たちの中には、「海外で空手を教えてみたい」「海外に支部を作りたい」などと言ってくれることがあり、それは当館としても喜びである。

【４．インバウンド等受入に当たっての課題】

■コミュニケーションについて
・道場の門下生に英語の先生がいるため、手伝ってもらい対応している ・今の子供たちは外国人に抵抗はない。最初は抵抗があるかと思ったのだが、当初想定していたよりもコミュニケーションが取れている。 ・10～15 人くらいの外国人を受け入れる際には、英語を話せる人が 3 人程度は必要。1 人しかいないと一方的に伝えるだけになってしまう。
■トラブル
＜ケガ＞ ・受け入れる側としてもケガの予防には細心の注意を払っており、これまでケガはなし。小学生だけでなく、中学生以上の外国人も受け入れることはあったが、サンドバッグを蹴りたがることが多い。ただ、蹴りはケガをしやすいため、ケガをしないように重々注意している。
■今後の課題
・これまでの受け入れにおいて外国人特有の難しさは特になかった。 ただ、外国人の子供たちが帰国したあとは、当道場に通う子供たちとのつながりがあまりない。今後はそこまで持っていけると良い。

【５．その他】

■旅行会社などへの要望
＜受入れの相談と連絡について＞

・参加希望日の 2～3 週間前には連絡してもらいたい。多くの人数を受け入れる場合は、近くの施設に協力してもらう必要があることと、祝日以外は毎日通常の稽古が入っているため日程調整をする必要があるため。より早く、例えば 2～3 か月ほど前に連絡をもらうことができれば稽古日の融通も利かせやすくなるのでありがたい。

＜事前に知りたい情報＞

・プログラム内容にもつながってくるため、人数、参加者の年齢、来日の目的（空手が主目的なのか、観光に来ているの）や空手経験の有無について知りたい。

・当道場のレンタル稽古着は 2～3 人分しか持っていないため、これまでは空手着を着せるのではなく動ける服装でやってもらっていた。ただ、買い取り前提であれば当館で用意したり、空手用品店を紹介したりすることも可能。空手着はマークを入れず、初心者用の帯までセットで 6,000 円程度。名前を入れると 8,000 円程度で用意できる。

＜プログラムについて＞

・観光目的での来日のなかで、「少しで良いので武道に触れてみたい」という要望の場合は、稽古への参加ではなく門下生が演武を披露する形で対応することも可能。型や組手、試し割、古武道の棒術の演武などで 1 時間は十分に見せることができる。

＜費用＞

・旅行会社からの声掛けで受け入れる場合は、指導者へ対価を払うためにも料金を受けとりたいが具体的な金額は今後決めていく必要がある。

赤嶺空手道場

【施設概要】

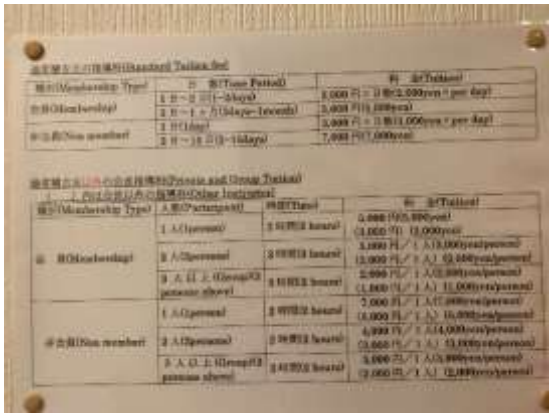
体験可能な武道	空手
所在地	沖縄県豊見城市根差部 676-3
ホームページ	https://shimbukan.wordpress.com/about-shimbukan/masters/
外国人受入実績	・1971 年ごろより受け入れ。 ・館長が外国で指導した際の縁から外国人の来館が増加 ・年間 200 日程度、訪日外国人を受け入れ。

【外観】

【内観】

【内観】

【稽古料金表】



【内観】

【用具各種】

【1．外国人受入当初について】

■外国人の受入開始時期
・1971 年に道場を開いてまもなく
■背景
・沖縄には外国人が多いため、もともと門下生に外国人がいた。また、館長自身が外国に教えてに行くこともあり、そこで教えた人がより詳しく教えてもらいたいということで来るようになった。

【２．体験プログラムについて】

■体験プログラムの内容
＜申し込み方法＞ ・外国人の申込は大半がメール。そのほか沖縄県空手案内センターからの依頼に加え、外国の個人エージェントたちからの依頼もある。 ＜体験内容＞ ・1 回の体験は 1 時間半～2 時間。最大 2 クラス。夕方以降は門下生向けの教室があるためそれまでの時間に行っている。1 回あたり最大人数は 20 人程度。 ・まずは道場に入り正座して礼をするが、来館者は経験者が大半で、礼儀はできるため、そこに時間はかけない。 予備運動をして、それ以後の内容は今までにどのような空手をしてきたか聞いて、それをベースに組み立てるため、参加者によって教える内容を変える。 基本動作（つき、けり、受け、動き）で 2 時間は終わってしまう。組手は「約束組手」をレベルに合わせて行っている。「実践組手」は時間の問題でできない。 ・参加者のレベルに合わせるため、同じ回に白帯と黒帯が混じっていると難しい面はあるが、その場合は下のレベルに合わせる。上級者は不満があるかもしれないが体験としてやってもらう。 ＜料金＞ ・続けていくためにお金は重要。昔は空手でお金をとるなと言われたが、人数が増えると大変になる。さらに教えられた人がそれで商売をする。それはおかしいということで料金を取るようにしている。 料金は下表のとおりで、沖縄県の空手案内センターが設定している料金とほぼ同じ。

【料金表（非会員）】

参加人数	時間	料金
1 人	2 時間	7,000 円 / 1 人
2 人	2 時間	4,000 円 / 1 人
3 人	2 時間	3,000 円 / 1 人

■参加者層

・レベルとしては中上級者が多い。

・特に多いのはヨーロッパ。当道場の支部がある国が中心。イギリス、ドイツ、スイス、スペイン、ギリシャなど。
年間 200 日くらいは外国人が来館する。門下生は 1 人しかいないため、ほぼ訪日外国人。彼らは平均 10 日程度沖縄に滞在し、そのなかで当道場を訪れるケースが多い。

■当会への参加理由（選ばれる理由）

・当道場が選ばれるのはホームページが大きい。日本語版と英語版とあるのだが、英語版はアメリカ人が発信している。
自身が海外にいって教えることも多いのだが、あまりに基本を無視した空手で驚いた。素人とあまり変わらないレベルの黒帯の空手家も見た。ただ、そうした道場の門下生が何百人といる。そのことショックを受け、「本物の武道を広げていかなくてはいけない」と思ってホームページで情報発信を始めたところ、それを見て来館する人が増えた。
また、海外の当道場支部に入門したうえで、本場で教えてもらいたいという理由から来館するケースもある。

・申し込みを断る場合がある。「段が欲しい」という理由で申し込んできた場合。母国で道場を経営していて、そこで加入者を増やしたいという理由とみられ、1 ヶ月で段を与えてほしいという場合がある。しかし、それはすべて断っている。

■参加者に喜ばれること

・外国人が喜ぶことは今まで習っていたこととの違い。
例えば、外国人は「空手は力でやるもの」だと思っている。ただ、彼らより小さい自分に負ける。これがなぜなのか、呼吸法などを見せて説明すると驚くとともに喜ぶ。そのため、簡単な突きなどだけでなく、奥義のようなものも見せることも参加者の満足度を高めるためには必要。

・沖縄空手では巻き藁の突きが基本だが、外国人はあまり使わないようで、その突き方を教えてほしいと言われる。

そのほか、古武道で使うヌンチャクや棒の使い方を教えてほしいと言われることがある。

■武道体験のほかに喜ばれたこと

・初めて来た人は必ず一度食事に連れていく。これが喜ばれる。道場では体を動かすのであまり会話をする時間がない。食事の場だと沖縄空手や当道場の話などいろいろな話ができる。場所は居酒屋が喜ばれるが、魚が苦手で肉や野菜を好む人が多い。

・観光案内で喜ばれるのは空手会館の資料室や顕彰碑めぐり。沖縄では空手関連施設だけで 2～3 日は過ごせるのではないか。
それ以外の観光スポットは外国人自身であらかじめ調べてくることが多い。

【３．外国人受入による施設側のメリット】

■外国人を受け入れて良かったこと

・沖縄空手を紹介し、武道空手の発展につなげられること。正しい内容が世界に伝わってほしい。

【４．インバウンド等受入に当たっての課題】

■コミュニケーションについて

・英語は話せた方が良い。身振り手振りで教えられるが、なぜその動きが必要か、その説明は英語でないとできないし、そこが一番喜ばれるため。
当道場では、1971 年の道場解説時には英語講師が手伝ってくれていたのだが、彼が来られなくなり、自分で伝えるしかなくなったため英語を勉強した。

■日本人との違い

・外国人は同じような内容で 2,000 円と 1 万円がある場合、1 万円の方に行きたがる。質がお金に比例すると考えているようだが、これには驚く。

■参加者の地域や国による違い

・外国人の求めるものについて国の違いはない。
・イスラム系の国の人たちも 2~3 回程度受け入れたことがあるが、彼らは絶対に礼をしない。宗教上の理由のため、受け入れる側が許容するしかない。

■トラブル

・事故やケガを防ぐためにしていることは特にないが、これまでトラブルはなし。

■今後の課題

・生まれ育った環境の違いだと思うが、日本人では理解できないことも多い。人と人との信頼が簡単に裏切られることもあるので、そこは難しいが、慣れと割り切りが必要。

【５．その他】

■旅行会社などへの要望

・中上級者はみな自分で道場を探してくるので、そこに旅行会社が入る余地は大きくないのではないか。逆に町道場の師範たちはどの国に空手の興味のある初心者がいるか分からない。そうした人たちを連れてきてくれるのであれば、お互いにメリットがある。

・今後、声をかけてもらえれば受け入れるが、空手着の用意はしてほしい。体育館ではなく、神聖な道場で教わるために空手着を着ることは最低限の礼儀だと思ってもらいたい。そうしたマナーを記した案内書などがあるといいのではないか。空手に限らずどの武道でも共通と考える。
そのほか、体験開始時に参加者に動きをさせてレベルを判断するが、旅行会社が参加者のレベルを事前に教えてもらえるとありがたい。

・空手には伝統空手とスポーツ空手（競技空手）とがあるが、旅行会社としてもその違いを知っていることは重要。そこで参加者のリクエストとのミスマッチが起こると関係者全員にとって良くない。

■インバウンド等受け入れにあたって

・最初は厳しくすることが必要。その方が外国人は喜ぶ。雰囲気をしっかりと味わってもらうためにも最初に緊張感を持たせることが必要。

・用具や道具としてはサンドバック、キックミット、巻き藁。空を切る型などだけでなく、しっかり「当てる」練習をすることが必要。

・最初は参加者の実力を見ること。少し動きを見せてもらい、それぞれに合ったものを教える。それまでと全く違う内容や違うレベルではなく、参加者のそれまで学んできたことを基本とすることで興味を持たれる。ただ、この判断には経験が必要。
そのほか、ときにはユーモアも必要。あまりにきつい内容であると精神面は良いとしても技が身につくかというと疑問がある。

・宗教と政治的な話はあまりしない方が良い。

琉翔会総本部

【施設概要】

体験可能な武道	空手
所在地	沖縄県豊見城市豊見城 217-2
ホームページ	
外国人受入実績	1960 年代ごろより沖縄在住の米軍関係者を受け入れ。 それ以後、会長が請われて海外に行き指導した際の縁から当館を訪れる外国人が増え、近年は世界各国から空手家が来日。

【看板】

【内観】

【内観】

【外国人に対する指導の様子】

【1．外国人受入当初について】

■外国人の受入開始時期
・1960 年代ごろ
■背景
・嘉手納基地に駐在している米軍関係者が空手を習いに来館するようになり、その後徐々に増えた。 ・また、会長が 1990 年代より世界各国の空手家に請われて現地に行って指導をしており、そこで教わった外国人が当館に来るようになった。 ・新型コロナウイルス発生以前は、年間 500 人以上の外国人が来館していた。

【２．体験プログラムについて】

■体験プログラムの内容
＜申込方法＞ ・連絡はメールによる。会長夫人がメールを訳し、会長に内容を伝えている。 ＜内容＞ ・1 クラス当たり 2 時間程度。 短期滞在と長期滞在、あるいは来館回数によって内容は変えているが、基本的には参加者が教えてほしいことを教えている。 最初に神前に対して礼、先生に対して礼をするが、そのあとは予備運動（準備運動）、補助運動（突き、蹴りなど）、型、組手（一本組手、二本組手、連続組手、分解組手など）と繋がっていく。短期滞在で時間がない人の場合は、予備運動までを短めにして補助運動から入るケースもある。 ・沖縄以外の地域の先生は何十分もかけて礼儀を教えるが、当館ではそこにはあまり時間をかけない。ひとつの組手に 10 分程度、一本組手、二本組手など多々ある。受けや突きなど型の種類も多いため、礼儀に時間をかけると時間が足りなくなってしまう。 実際、上記の 2 時間で終わらないことも多い。 ＜費用＞ ・費用は設定していないが、来館者が 2,000 円程度を置いていくことが多い。 ・なお、海外に行って指導する際も対価は受け取っていない。航空券代、ホテル代、食事代といった実費のみ受け取っている。 会長は 80 歳でほかに仕事をしているわけではないが、空手で収入を得なくても生活はできるため、空手で費用を受け取っていない。年齢の若い指導者はお金をもらわなければ厳しいと考えている。

■参加者層

・アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリス、チェコ、スロバキア、ロシア、キューバ、インド、ブラジル、台湾など多様な国から参加。

■当会への参加理由（選ばれる理由）

・当館の剛柔流は競技空手ではなく、試合のない伝統空手。精神を鍛えて長く健康に生きることが伝統空手の楽しみで外国人も同じである。当道場には試合をしたくて来る人はいない。

・剛柔流には、他流派にはない一本組手があるため、他流派から来た人は、それを教わりたいという人も多い。

・当館の剛柔流空手は動きについて疑問が次々湧いてくる。分からないことが多いため、本場の師範に直接教えてもらいたいとして来館するケースが多い。実際に、来館した外国人は蹴りや突きの角度など細かい点を聞いてくる。一つの技について 10 や 20 程度質問してくるなど、質問が多いことが理由で 2 時間では終わらないこともある。
ただ、来館者には遠慮せず質問してもらって良いと伝えている。尋ねられたことにはすべて回答しているが、そのためか稽古終了の際には参加者が師範を尊敬の目で見るようになっている。

■武道体験のほかに喜ばれたこと

・稽古が終わった後、付近の飲食店で行うパーティを楽しみにする外国人は多い。

・外国人はビーチでの遊泳を好む。外国人は春から秋までだけでなく、冬でも気温が 25 度近くあれば泳いでいる。

【３．外国人受入による施設側のメリット】

■外国人を受け入れて良かったこと

・稽古が終わった後のパーティ（食事会）を楽しみにしている。外国人とお酒を飲む時間が本当に楽しい。

【４．インバウンド等受入に当たっての課題】

■コミュニケーションについて

・会長は英語を話すことができないが、苦労は特にない。身振り手振りで伝わる。外国に行って教える際も同様で、通訳がつかないことも多いが特に問題ない。

■日本人との違い

・外国人受入れ当初は、靴のまま道場に入るケースがあった。これは文化の違いなので仕方ないのだが、今はそういうケースも減っている。
・国による難しさの違いは特にない。

■トラブル

・外国人を受け入れて以降、ケガなどのトラブルも特にない。特に何か注意しているわけではないが、それでもない。

■今後の課題

・毎日が勉強。外国人が来た時もそうだが、外国に行った際にも質問されたことに「分かりません」とは言えないので、それぞれの動きについてなぜそのように動くのか、ということは日々考えて勉強している。

【５．その他】

■旅行会社などへの要望

・旅行会社からの紹介はこれまでにないが、今後問い合わせを受けた場合は対応可能。
対応可能人数は 1 回あたり最大 20～30 名程度。

■インバウンド等の受け入れを検討する施設に対して

・質問されたことには何でも答えて教えないといけないので、その覚悟は必要。
・ビデオを撮りたいと言われた場合の対応を検討しておく必要はある。当館では撮影を可としているが、これはお金をもらわないからできること。
ビデオに撮られたら、それで勉強すれば良いと思って来てもらえなくなってしまう可能性があるので、これで稼いでいくつもりであればビデオ撮影は不可とすることも考える必要がある。

２．地域における取組事例

山形県村山市

【施設概要】

体験可能な武道	居合道
ホームページ	居合道体験 https://www.iaidoexperience.com/ 村山居合振武館 https://murayama-sports.com/iai-shinbukan/
取組内容	・2019 年より、居合道発祥の地であることを活かし、市主体のサムライ体験プログラムを展開。

【1. 取組開始時期と背景】

■外国人の受入開始時期

・2017 年（商品造成期間含む、商品化は 2019 年）

■背景

＜村山市について＞

・村山市は山形県の中央部に位置し、銀山温泉のある尾花沢市に隣接している。観光資源はさくらんぼ、バラとそば。恋人の聖地に認定されており 2 万株あまりのバラが咲き誇る東沢バラ公園、あらきそばという山形県内でも一番有名な蕎麦屋がある。最上川三難所という急流地域があるのだが、それに沿って蕎麦屋が点在する「最上川三難所そば街道」がある。そのほか芋煮も有名。

8 月の下旬にむらやま徳内まつりがあり、観光イベントの軸になっている。

日本酒では、全国的に有名な「十四代」の酒蔵である高木酒造があり、これが村山市の存在を日本中に知らしめていると言っても過言ではない。

・さらに、武道についても村山市は居合道発祥の地であるため、こちらを軸とした観光施策を推進していくことが過去の市長の施政方針でも述べられている。

【さくらんぼ】

【東沢バラ公園】

出所；村山市

＜村山市観光の現状＞

・東北 6 県における外国人の延べ宿泊数は 2019 年の速報値で日本全体の 1.7%にとどまる。要因は多々あるが、認知度の低さが目立つ。そのため、東北全体でデスティネーションキャンペーンを進めようとしていた。

そのなかで、山形市は仙台市、福島市と連携して動いている。山形市はハブ空港の仙台空港から 1 時間。山形市から鶴岡市まで 1 時間半。高速を使えば 2 時間あまりで移動できるため、そこを巡ることが、仙台から山形までの時間の過ごし方として考えられる。

そのエリアの中には松尾芭蕉で有名な山寺があり、蔵王温泉、ミシュラン 2 つ星の出羽三山がある。そして、鶴岡、酒田の文化を見ながら奥の細道のルートでもあるので最上川の川下りをして銀山温泉に泊まる観光ルートができ人気も高い。

村山市はこうしたルート上にある。村山市の観光入込客数は 50～60 万人と言われるが、間もなく東北中央自動車道が完成予定で、開通すると村山市が通過されてしまう可能性がある。現在は 1 日 3 万台の通行量、高速道路開通後は 1 万台にまで減少すると見込まれる。そのため、わざわざ村山市に立ち寄ってもらう施策の必要性に迫られている。

また、集観光客は隣接県、南東北や北関東といったエリアからに留まっていたこともあり、インバウンドに注力した旅行商品の開発が課題で、その解消に向けて取り掛かったのが 2017 年。

＜村山市と武道＞

・村山市には居合道の創始者林崎甚助重信公という人が祭祀られている日本で唯一の居合神社（正式名称：熊野居合両神社）が存在する。林崎公は、後の居合神社で抜刀の秘伝を授かり、「刀を抜かないで勝負を決める。相手が刀を抜いてせめて来た時だけ抜くというのが居合道である」と日本中に説いて回った。その林崎公の居合が核となり、そこから 20 以上の分派が派生したと言われている。それが武士道に影響を与えた。村山市が居合道発祥の地と言われる由来である。

その林崎公が祭祀られており、居合や剣術の修業をする人が参拝に来る。そうした居合神社がある村山市では、毎年 6 月に居合道の全国大会を開催しており全国から剣士が訪れる。9 月には林崎公を偲ぶ奉納演武会が居合神社境内で開催され、約 13 流派の宗家が演武を行っている。そこに参加することが日本の居合術の修業者が憧れるイベント。

村山市立楯岡小学校には日本で唯一の居合道クラブがあり、小学生の頃から居合道を学び、育っている。

【林崎居合神社】

【奉納演武を行う楯岡小学校居合道クラブ】

出所：村山市

＜武道体験プログラムの開発にあたり＞

・このように、村山市の居合に関する資源と歴史を活かすため、2015 年 10 月に村山市では、観光プロモーション発信事業として村山市に観光客を呼ぶためのワークショップを行った。そこでは、「斬・断・願」ツアーという居合神社での体験をするツアーを企画したところ高評価を得た。

また、同年 12 月には 10 月と異なるメンバーで村山市の観光活性化ワークショップを実施、そこで村山市の新しい観光商品について意見を求めたところ、「居合」というキーワードが多く出てきたため、居合を体験できる観光商品を作ろうとなった。ただ、市としてもどのようにして商品化すればよいか分からないため株式会社アイサイトに事業商品開発を委託、ロシアのヤクーツク市の人たちとの交流のなかで居合道体験への取組を開始した。

当時の副市長が林崎居合道伝承会の会員であったこともあり、その肝煎りで居合道の観光商品を造成するワークショップを 2017 年 9 月から 2018 年 12 月まで実施、「居合」を人が集まるものにするためにどうすれば良いかを話しあった。話し合いには市の各課や観光関連事業者、居合関連の方、神社の宮司、地区住民などステークホルダーが参加、6 回のワークショップと 13 回の試験体験会を行い、2019 年 1 月に商品化して体験プログラムを発売した。

販売後も順調に進んでいたのだが、新型コロナウイルスの感染拡大により、2020 年 3 月から 6 月まで一時的に受付を停止せざるを得なくなった。同年 7 月から再開したもののその後もコロナの影響で受け入れは限定的な状況が続いている。

【２．体験プログラムについて】

■体験プログラムの内容

＜体験プログラムの内容（サムライ体験）＞

・居合道と抜刀術という、似て非なるものを取り入れたプログラムとしている。居合道は形を中心にしている。抜刀術は巻藁を使って真剣で斬る。居合は形なので伝統的な形体験だけでは観光として弱い。エンターテインメント性を高めるために抜刀術で「斬る」体験がどうしても必要であった。本来であればありえないのだが、林崎居合伝承会の先生方と阿部派一刀流の阿部先生という、本来相容れない人たちの相互理解と献身性をもらい、プログラムが成立した。

出所；村山市

＜プログラムの種類＞

居合神社サムライショー

居合道六段の真正なる演武と、真剣試斬の見学プラン

30,000円 税別　－1～40名まで体験可能です－

居合神社参拝　居合道演武　試斬演武

居合道の始祖である林崎甚助重信公を祀る日本で唯一の林崎居合神社に参拝し、夢想神伝流の先生による華麗な居合の演武と解説、阿部派一刀流宗家による真剣での迫力ある抜刀術の妙技をご覧いただきます。

■人数：1～40名
■体験時間：40分［10：00～／13：30～］
※上記以外の開始時間はご相談ください
■料金に含まれるもの：居合演武料、会場使用料
■服装：冬季は暖かい格好でご参加ください

居合道体験

夢想神伝流の居合演武を見て、基本の型を体験するプラン

8,000円／人 税別　－3名様より承ります－（1～2名の場合は24,000円で体験可能です）

居合神社参拝　居合道演武　居合体験

居合神社を参拝し、華麗な居合の演武と解説を受け、居合道の基本の型である「初発刀（しょはっとう）」を実際に体験します。道着に着替えて、日本刀の扱い方から居合の型の一連の動作までを学びます。

■人数：3～16名（1～2名の場合は24,000円で体験可能です）
■体験時間：90分［10：00～／13：30～］
※上記以外の開始時間はご相談ください
■料金に含まれるもの：指導料、道着・模造刀使用料、会場使用料
■服装：インナーやTシャツ等を着用ください

おすすめ　居合抜刀術サムライ体験

夢想神伝流「初発刀」を習い、試斬を体験する本格プラン

12,000円／人 税別　－3名様より承ります－（1～2名の場合は36,000円で体験可能です）

居合神社参拝　居合道演武　試斬デモ　居合の型体験　試斬体験

本物の刀で畳筒を斬る「試斬体験」ができるおすすめプランです。居合の演武と解説、抜刀試斬のデモを見学し、基本の型である「初発刀（しょはっとう）」を体験します。真剣を持って実際に斬る体験は一生の思い出になります。

■ 人数：3～16名（1～2名の場合は36,000円で体験可能です）
■ 体験時間：2時間［10：00～／13：30～］
※上記以外の開始時間はご相談ください
■ 料金に含まれるもの：指導料、道着・模造刀使用料、会場使用料、試斬畳筒代
■ 服装：インナーやTシャツ等を着用ください
■その他：畳筒の試斬追加は1本につき3,500円になります

居合抜刀術プライベート修行

居合の聖地で本格的なサムライ修行ができるプラン

30,000円／人 税別　－2名様より承ります－（1名の場合は60,000円で体験可能です）

居合神社参拝　刀礼講座　抜刀術演武　居合体験　試斬体験　認定証授与

外国人におすすめのプライベート修行です。居合神社に参拝し、抜刀試斬の華麗な演武を見学します。日本刀の扱い方や精神性を学び、居合道の型を習得し、真剣での試斬体験で締めくくります。最後に認定証を授与いたします。

■ 人数：2～10名（1名の場合は60,000円で体験可能です）
■ 体験時間：5時間（昼食込み）［10：00～］
※上記以外の開始時間はご相談ください
■ 料金に含まれるもの：指導料、道着・模造刀使用料、会場使用料、試斬畳筒代2本分、昼食代、認定証書代
■ 服装：インナーやTシャツ等を着用ください
■ その他：昼食の内容はご予約時にお問合せください

注意事項

・料金に含まれないものは交通費、宿泊費、各種保険など、個人的諸費用が該当します。
・申込をキャンセルされる場合体験日までの日数に応じてキャンセル料が発生いたします。（2日前20%／前日50%／当日100%）
・申込は体験日の7日前の17時までにお願いいたします。
・表示金額はすべて税抜き価格となっております。

会場　村山居合振武館
〒995-0006　山形県村山市林崎86-2

路線バス　JR村山駅前バス停より乗車「林崎」下車　徒歩3分

乗用車　出口「東根I.C.」国道13号線を北へ 約20分
〈 右手に見える真っ赤な鳥居が目印 〉

出所；村山市

①サムライショー
・サムライショーは先生の演武を観覧。
・価格は団体でも 1 名だけでも 5 万円（税別）で固定。

②居合道体験
・居合道体験は模擬刀を用いた演武だけの場合、90 分で 1 人 8,000 円（税別、2 名以上の価格）。
1 名の場合は 16,000 円（税別）。居合道の体験は居合神社でお参りするところから始める。最初に「初発刀」という形があり、それができるようになるまで稽古してもらうのだが、そこで心構えが変わる。夢想神伝流などの演武を先生に見せてもらい、それを人の前で披露できるようになるまで 60 分くらい。

③居合抜刀術サムライ体験
・居合道体験の後に、抜刀術を教えてもらい、真剣で畳筒を斬る試斬をする。価格は 12,000 円（税別、2 名以上の価格）。1 名の場合は 24,000 円（税別）。1 万円を超える価格設定だが、体験する価値は大いにある。

④居合抜刀術サムライ修行
・先生とのプライベートでのレッスン（居合抜刀術サムライ修行）
・1 日 3 万円（税別、2 名以上の価格）。1 名の場合は 60,000 円（税別）。

＜価格設定＞
・モニターツアー実施の際、参加者や旅行会社から「料金が高い」と言われた。しかし、利益が出なければ事業は続かないので、居合道および抜刀術の先生への指導料、エージェントへの手数料、販売サイト使用手数料などを踏まえたうえで最低限の利益は出る仕組みを作りたかったので価格は下げず、むしろ当初より上げた。参加者にとって価値がある体験として利益が出る価格設定にすることが必要。

・1 万円を超える価格設定とするには体験する側、される側も忘れられなくなるほどの体験ができるかどうかがポイントとなる。素晴らしい体験ができる場所であると伝え、それをフックとしてバラやお酒など村山市のさまざまな体験をしてもらうことで、より高い金額のツーリズムが成り立っていく。
言語の問題を解決すれば、この体験は世界中の観光客に対応できる。

＜通訳＞
・通訳は武道の専門用語を伝えるのではなく、武道ならではの難しいニュアンスを伝える

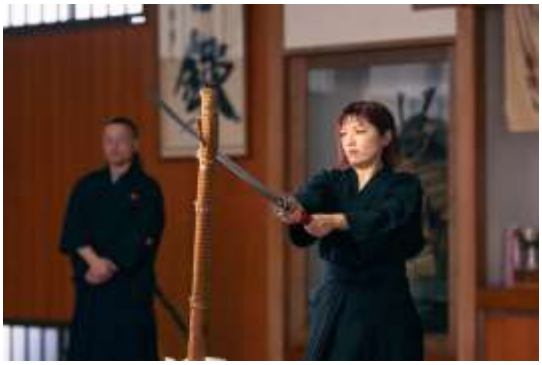
ことのできる人である必要がある。通訳の資格などのレベルでいえば上のレベルとなる。基本的には来市する側の帯同通訳であるが、当市で用意する際には阿部先生のお弟子さんに手伝ってもらっている。今のところコロナで需要が大きくないこともあり、通訳対応はできているが、今後コロナがおさまって一気に需要が増大した場合には成り立たなくなる危険性がある。

＜申込方法＞

・一番多いのはホームページからの申し込み。そのほか、アクティビティジャパンなどからも申し込まれている。

＜体験場所の村山居合振武館＞

＜体験の様子＞



出所；村山市

■参加者層

・居合プログラムの参加者はコロナ前の 1 年間で 191 名。サムライショーの観覧は 619 名。プロモーション費、宣伝費もないなかで予想以上の申し込みであった。

コロナにより中断したが、2021 年は 1～3 月まで 66 名の参加。対前年比で 80%近い数字。コロナによるキャンセルもあったため、コロナがなければさらに多くの人に来ても

らえていたことは確実。
・参加者の内訳は日本人が 8 割、外国人が 2 割だが、コロナが明けたら外国人の比率は高まるとみられる。

■参加者に喜ばれること

・神社への参拝。道着を着て参拝し、居合に関するさまざまな説明を受けるという体験は本当に喜ばれる。
当市の居合プログラムはただ斬るだけでなく、歴史を聞いて、初発刀の形をして、みんなの前でお披露目をする。この過程を踏むと、最後に試し斬りをする際の心構えが大きく違ってくる。約 2 時間にわたる全ての内容が試し斬りを感動的なものにするための欠かせないプロセス。

■合意形成ができ商品造成にまで至った要因

・関係者間の合意形成にあたっては上述の通り、副市長の存在が大きかった。初回のワークショップにも副市長が参加するなど事業推進に前向きであったため、それが他の関係者の意識にも波及した面はあると考えている。
また、商工観光課は居合道体験プログラムを、スポーツ振興を担う部署では武道館の管理および居合道の全国大会を担当という形で武道に関する役割を分担したことで、市役所内における業務推進もスムーズに進んだ。

■商品造成にあたって苦労したこと

＜役割分担＞

・一番苦労したのは、それぞれの役割を「どの組織や団体（誰）が担うか」が決まらなかったこと。例えば、居合道体験の受付やランドオペレーターをどこが担うかであるが、特に。受入れの現場を担当するランドオペレーターが決まらなかった。市が募集した地域おこし協力隊が担っているが、そこに至るまでに時間がかかった。ただ、地域おこし協力隊は自治体との期間限定の契約であるため退任後の人材の問題は残っている。

■安全性の確保について

・真剣を扱う体験のため安全性には細心の注意を払っている。まず、試し斬りだけの体験をしておらず、模擬刀を使った体験をした上で、真剣を渡すようにしている。
また、安全マニュアルを作成したり、試し斬りをする際は床にゴムマットを敷いたり配慮したうえで実施している。
ただ、万が一のことがないとも限らないため、上級救急救命受講済みのランドオペレーターが待機している。

【４．インバウンド等受入に当たっての課題】

■今後の課題

＜運営体制＞

・運営体制は、観光物産協会、林崎居合道伝承会、阿部派一刀流、市の商工観光課などで構築（このほか、令和 3 年 10 月まで株式会社アイサイトへ販売支援業務を委託）。これをスポーツツーリズムコミッションや武道ツーリズムコミッションという形に昇華させたいというのが関係者の願い。観光物産協会は既存事業も幅広く行っている。体験事業は片手間ではできないため、武道ツーリズムを中心として農業体験等の広域連携に取り組むためにも新しい組織を作る必要があるのだが、村山市内でそうしたコンセンサスが取れていない。

今までの観光協会でやろうとしても稼ぐ力には結びつかない。新しい目的をもって新しい組織を作り、商品の質を高めることが必要。

今はまだプログラムの参加人数が少ないためにできているが、大きな事業が入ってくると対応できない。まして真剣を使う体験でもあるので片手間でできるものではない。

新しい組織を作ると組織の維持費が必要となるので大変ではあるのだが、むしろ新しいことをすると予算が承認される公算が高くなると考えられるので、これを進める必要がある。

＜事業推進の中心となる人材確保＞

これまで観光の主な形態であった施設型、イベント型の観光を体験型に変えて、体験観光として料金をとって事業化するという場合には、「動き方、組織、人の巻き込み方、商品を作るということをトータルでやれる人材」を確保する必要があるのだが、そのための人材が全国的にもそうはいないためである。

コロナ発生後、大手旅行会社では退職者が多くなっているようで、観光の専門家がそれほど世に出ているのに、こうした人材がでてこない。それだけ看板なしで観光事業をすることは難しい。

＜プロモーションのための予算確保＞

・今後の販売拡大に向けてはプロモーション強化が課題となる。市独自で予算をつけることが難しい中で可能な範囲で広告を出したり、海外のインバウンド番組の取材を受けたりして情報発信をしているが、大々的な PR ができてない。

国の補助金事業に応募しても競争が激しく当選しづらいのだが、今後も活用できる制度を活用してプロモーションに注力していきたい。

【５．その他】

■国への要望
・マーケティングができていないので武道体験に興味を持つ人たちがどの国や地域に多いか分からず、ターゲットを絞り込むことができていない。こうした調査結果を提供してもらえるとありがたい。
■旅行会社との関係
・居合体験プログラムの販売について旅行会社はあまり関わっていない。大手の旅行会社はテストの段階で何度も来てもらったりしていたが、商品を作ろうとしたところでコロナが発生して頓挫した。さらに、コロナ後は旅行会社が自社のことできびしい状態が続いている。

沖縄県（空手振興課）

【概要】

所在地	沖縄県那覇市泉崎 1-2-2　行政棟 12 階（南側）
ホームページ	https://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/karate/index.html
組織について	・沖縄県庁には、空手振興課、スポーツ振興課、観光振興課と空手関連事業を行う部署が 3 つある。 空手振興課は沖縄伝統空手の継承・普及・啓発の 3 つを目的として、2017 年に「文化・観光・スポーツ部」の一部署として設置された。 空手ツーリズムに関する取組みは空手振興発展に向けたものとして位置付けられるため、、空手振興課が担っている。 （スポーツ振興課は競技空手を担当）

【1. 空手ツーリズムへの取組】

■取組開始時期

・空手振興課としては 2017 年の設置と同時に取組み開始。
ただ、県としては沖縄に来てもらうために空手の先生を各地に派遣して沖縄の魅力を伝えることでインバウンドの来県につなげるなどの活動を、当課設置以前より行っていた。

■空手ツーリズム関連施策

・2018 年 3 月、「沖縄空手振興ビジョン」を策定、本ビジョンをもとに、戦略的かつ計画的に沖縄空手の振興に取り組んでいる。
また、当ビジョンでめざすべき将来像の実現に向けた具体的な工程等となる「沖縄空手振興ビジョンロードマップ」を 2019 年 3 月にとりまとめた。
本ロードマップに基づき、関係機関が密な連携を図り認識を共有しながら、各種施策を推進している。

「沖縄空手振興ビジョン」
（本編）
https://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/karate/documents/vision2.pdf
（概要版）
https://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/karate/documents/vision1.pdf

「沖縄空手振興ビジョンロードマップ」
（本編）
https://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/karate/documents/rm-honpen.pdf
（概要版）
https://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/karate/documents/rm-gaiyou.pdf

■取組内容

・元々、沖縄県には魅力のある空手道場が多く、外国人や県外の人がそうした道場を目的に来県することが多かった。そうしたなか、県としては世界大会やセミナーを開催して来県の呼び込みを行うなど、空手をフックとした来訪者増加につながる取組みをしてきた。

＜県主催の世界大会＞

＜空手振興課 HP での情報発信＞

＜空手振興課　公式 YouTube チャンネル＞

現在はこうした取組みに加え、来訪者の満足度を高めるため以下取組みをしている。

＜ガイドの養成＞

空手ツーリズムのガイド養成。2022 年には世界大会があり、各国から来県するため、そ

うした人たちをもてなすためのガイドを育てている。空手ツーリズムに付き添うためには空手の知識についてもある程度必要。例えば沖縄伝統空手には 4 つの流派があるなど。さらに、単に語れるだけでなく、実技もある程度できるようになってもらう。ガイド自身が肌で感じた経験を有することで、より質の高いガイドをしてもらうようにしている。

＜空手案内センターの設置＞

・沖縄県空手会館内に空手案内センターを設置し、ツーリストに道場の紹介をしている。沖縄に空手を目的として来県する人は空手に詳しい人が多いため、「どの流派でどのようなことを習いたい」という要望に応える必要がある。当施設には、沖縄県に 20 年以上滞在し、沖縄空手に精通したフランス人がいて、来県者に適した道場を紹介している。
その一人に頼る属人的な面があるため、2020 年に受け入れ可能な道場を掲載した空手アプリ「空手」を制作したが、現状は発展途上で今後強化していく必要がある。

＜ユネスコの無形文化遺産登録への取組＞

・オリンピックにおける喜友名選手の金メダル獲得を受けて、県にも空手関連の問い合わせは増えた。しかし、コロナの感染区代もあり具体的にそれがインバウンド拡大につながっていることはない。
沖縄県として今後期待したいことは空手愛好家の増加。とにかく空手発祥の地が沖縄であることが広まり、来県者が増えてほしい。そうしたなか、ユネスコの無形文化遺産登録に向けた取り組みをしている。2021 年 11 月時点では県内の周知や啓発の段階で本格的な国への要請までには至っていないが、この登録をすることで空手発祥の地としての沖縄の認知度が大きく高まり、世界に強くアピールできる。また、歴史や沖縄のなかでの民族的側面も含めて掘り下げられるため、インバウンド取り込み拡大に向けて強力なツールとなる。沖縄伝統空手に興味を持ってもらうための最大のブランディングと考えている。
この登録に向けて、4 流派の考え方や成り立ちについて、ユネスコで規定されている構成分野について準備してきた。2022 年度以降は民族的な調査を行い、文化的な厚みのある取組を深めて行きながら登録に近づけていきたい。早期実現を目指しているが、具体的な時期は未定で早くても 2023 年度以降となる可能性が高い。

＜量から質への転換＞

空手目的で沖縄県に来訪する人の傾向としては 10 日前後滞在する。これは一般観光で来県する人の 3 倍程度の日数であるが、長く滞在する中で、観光体験価値の質を高めるという「量から質への転換」を図っている。空手を体験するだけではなく文化的価値も感じてもらうことで来県者の満足度が高まるようにしていこうとしている。

■関連予算

・2021 年度における空手ツーリズム（インバウンド）関連の年間事業費はおよそ 4,000 万円。内訳は空手案内センター関連が 1,000 万円、ガイド養成が 1,000 万円、世界大会関連で 1,600 万円程度。
・2022 年度は世界大会の本大会が開催されるため、2021 年から大幅増額となる見込み。

【２．課題】

■取組みにおける課題

＜脆弱な受入態勢＞

・沖縄には 400 ほどの道場があるが全ての道場でインバウンドを受け入れることができるわけではない。また、道場の数だけでなく、道場によって体験内容の質も異なる。大きな道場は通訳がいて受入経験も豊富なので、そうした施設に偏ってしまう面がある。そのため、受け入れ態勢の全体的な底上げが必要。先述のガイド養成は受け入れ可能な道場を増やしたいという面もある。

＜関係組織間の連携＞

・沖縄県では空手道振興会、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（ＯＣＶＢ）など武道ツーリズムに関係する団体があるが、有機的に絡んでいるとは言い難い。各主体の役割分担が明確になっていないことがその理由であるが、ツーリズムはあくまで民間事業のため、役割は民間組織の間で決めてもらうしかない。県はあくまでサポートという立場である。基本的には伝統空手道振興会に引っ張っていってもらいたい。

【３．その他】

■国への要望

＜各国の安全性に関する情報提供＞

・コロナについて各国の安全性に関する情報を知りたい。コロナがどのような状況か、正確な情報を提供してもらいたい。

＜県の施策を国から発信＞

・県の施策を国からも情報として発信してもらいたい。そのためにも県の空手ツーリズムに関する施策を認知してもらいたい。例えば世界大会に関する情報が国から発信されれば、それに関連するツアーがいくつも造成されると思う。さらに、それに派生して空手以外の情報も発信してもらうと来県者の満足度も高まると思う。
武道ツーリズムのプラットフォームを作り、そのなかで発信してもらうこともその方法の一つ。また、県の事業では特定の情報をまとめたサイトを作ることのハードルは高いのだが、国が「観光のために」ということで、観光に資するまとめサイトを作る経費を

助成してもらえると助かる。緊急経済対策に載せるのであればそういうことも視野に入れてほしい。

＜事業資金の助成強化＞

・技の魅力をより伝えやすくするなど、県として事業展開できるように資金をもらいたい。今来ている人は空手メインだと思うが、沖縄にはそれ以外の観光スポットや文化がいっぱいあることを知ってもらいたい。今後ユネスコの件でもそうした研究がされると思うので、そうした点も触れてもらいたい。

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（OCVB）

【組織概要】

所在地	沖縄県那覇市字小禄 1831-1 沖縄産業支援センター2F
ホームページ	https://www.ocvb.or.jp/organization
組織について	・元々は県の外郭団体として、観光振興課と観光政策課の事業を担う組織して設立。沖縄県の地域振興に向けた取組を行っている。 2018 年に組織が広域連携 DMO に正式認定され、それまで（公社）日本観光振興協会の九州支部であったものが沖縄支部として独立。

【OCVB の空手ツーリズム特設サイト】

【1. 空手ツーリズムの取組開始時期と役割】

■取組開始時期
・2018 年より
■空手ツーリズムにおける役割
＜事業をゼロベースから動かすこと＞ ・空手ツーリズムの取組を始める以前から、観光産業の発展を通じた県経済の振興を推進する団体としてウエディング、マリンアクティビティ、修学旅行、映画のロケ地の誘致などを通じてツーリズムを推進してきた。そのなかで得てきた経験やネットワークを活かし、空手ツーリズムという新規テーマをゼロから動かす役割を担っている。 例えば、リゾートウエディングも最初は県の事業を当社が受託して推進していたが、県内のウエディングに関わる団体で構成されるリゾートウエディング協会という法人を立ち上げ、今では協会で自走して県や国の事業を受託しており、当社の手を離れている。 当社は旅行会社でもなく輸送機能を持っているわけではないため、事業を立ち上げた後は、沖縄伝統空手道振興会（以下、振興会）など専門の団体で自走できるようになることが理想。 沖縄県空手振興課で策定した空手振興ビジョンやロードマップでも、当社ではなく振興会が中心となって推進していくとしており、ゼロベースの段階で関係機関の連携を構築してツーリズムとして出発させることが空手ツーリズムにおける当社の役割である。

【２．具体的な取組内容】

■ゼロベースにおける取組
＜機運醸成＞ ・2017 年に沖縄県空手会館の共用開始、当初の指定管理を担う。 また、2018 年の広域連携 DMO 正式認定、（公社）日本観光振興協会における沖縄支部独立記念のシンポジウムを実施。そこで関係者を集めるなどして空手ツーリズムの機運醸成などを行ってきた。
■商品造成
＜観光庁のキャンペーン事業で商品造成＞ ・2019 年に観光庁の訪日グローバルキャンペーン事業で空手ツーリズムのコンテンツ造成事業を受託した。当事業では、事業終了の翌年（2020 年）10 月までに商品販売をする必要があった。2020 年 3 月で事業契約が終了してしまうと難しくなると考えていたのだが、2020 年度も事業を受託、取組みを継続することができた。国の事業で実施するのであれば、やはり 2~3 年の事業だと安心できる面は大きい。 このキャンペーンで実施したことは、まず協議会の立ち上げ。空手ツーリズムの適正な推進を果たすという目的の元、関係者を集めて運営した。そこでは基礎調査により情報

を集めるとともに、「守・破・離」というフレームワークを作り、コンテンツ造成に向けて動かした。
2 年にわたる事業でおよそ 40 のコンテンツを造成したが、携わった旅行会社はＪＴＢ沖縄とアゲシオジャパンの 2 社である。そ 2019 年の訪日グローバルキャンペーンを当社とＪＴＢ沖縄と新潟の国際大学と 3 者で受託した。その際にまず 20 ほどの商品を作り、翌年事業でアゲシオジャパンにも入ってもらいさらに 20 ほど造成した。
特定の旅行会社が行うとその会社の色が出てしまうため、公平性を保つためには当社が先頭に立つほうが良い。

＜造成商品一例＞

＜造成商品（ライト層向け）＞

出所：OCVB

＜造成が進んだ要因＞

①フレームワーク「守・破・離」

・造成にあたっては、「守・破・離」というフレームワークを早い段階で作れていたことが大きい。

このフレームワークは、道の要素として千利休の守破離（『利休道歌』）、観光の要素として B・J・パインⅡ, J・H・ギルモアの『経験経済』をもとに訪日 GC 事業で考案したもの。

＜空手ツーリズムコンテンツ造成のために考案したフレームワーク「守・破・離＞

空手ツーリズム（観光×空手）				
空手道へのいざない				
フレームワーク	ステージ	守（SHU）	破（HA）	離（RI）
コンテンツ	タイトル	空手を経験する旅	自分を探す旅	師や友と歩む旅
	イメージ	初級	中級	上級
経験価値４E	Entertainment（娯楽）	×		
	Educational（教育）			
	Escapist（脱日常）			
	Esthetic（美的）			
(自己)変革価値	自己変革（超越）			

出所：沖縄県

②コンテンツ評価シート

・実現可能性など３つの指標を用いて企画商品がコンテンツとして成立するか否か自動的に評価できる「コンテンツ評価シート」（次頁参照）を考案したこともツーリズム商品造成に役立った。客観的な視点でコンテンツの実現可能性や観光的な価値を測り商品化に繋げるというもので各指標の評価を事務局のメンバー一人一人が採点、その平均を採用する形で行った。

ただ、点数評価だけでなく、コンテンツが半日なのか１日以内のエクスカッションなのか、値段設定、受け入れ態勢はあるか、など評価者による記述も踏まえ、一つ一つのコンテンツについて判定を行ったことも評価の妥当性を高めた。

＜空手コンテンツ評価シート＞

■評価軸

下記 3 点について評価

（1）コンテンツ成立条件

①値段

②内容

③時間、

④催行人数

⑤形態

⑥受入

（2）販売実現可能性可否

①受入体制

②インバウンド対応、

③安心安全面

④催行実現性、

⑤発展・持続性

（3）顧客観光価値

①Image（イメージ）

②Trust（信頼感）

③Commitment（特別な存在）

④Social（特別な対応）

⑤Emotional（経験・感動）

コンテンツ評価シートの例

空手コンテンツ評価シート

コンテンツ名	No. 1	五感で体感する沖縄空手体験		
守破離	守	破		
経験の4E	Education	Escape		Esthetic

評価項目	点数	配分	配点
(1) コンテンツ成立条件評価	5.0	15%	15.0
(2) 販売実現可能性評価	4.6	50%	46.0
(3) 顧客観光価値評価	3.8	35%	27.0

総合評価
88.0
＊100点満点中
＊(1)～(3)の総合得点

＊各5.0満点評価

(1) コンテンツ成立条件評価	5.0
評価軸 値段	5.0
内容	5.0
時間	5.0
催行人数	5.0
形態	5.0
受入	5.0

＊各5.0満点評価

(2) 販売実現可能性評価	4.6
評価軸 受入体制面①(宿泊施設の設置等)	4.4
受入体制面②(インバウンド対応可否)	4.4
コンテンツ安心安全面	4.8
コンテンツ催行実現性	4.6
発展性・持続可能性	4.6

＊各5.0満点評価

(3) 顧客観光価値評価	3.8
評価軸 I（イメージ）	4.1
T（信頼感）	4.2
C（特別な存在）	3.2
S（特別な対応）	3.3
E（経験・感動）	4.3

＊各5.0満点評価

	守	破	離
参考モニターツアー	5.0	4.8	-
テーマ、ストーリー	5.0	5.0	-
インプットの適切さ	5.0	5.0	-
魅力度	5.0	5.0	-
独自性	5.0	4.7	-
本物度／正当度	5.0	4.3	-

顧客観光価値チャート

委員メモ

■消費者への情報発信

主に、以下により情報発信

＜空手ツーリズム特設サイトの開設＞

・上記で造成した旅行商品の販売拡大のため特設サイトにて商品の販売をサポート

https://karate.ocvb.or.jp/

＜VISIT　OKINAWA JAPAN＞

ウエブサイト、SNS（フェイスブック、インスタグラム）において、「VISIT 沖縄ジャパン」という名称で空手に関する情報を発信。

https://visitokinawajapan.com/

【３．課題】

■商品に関する課題

＜無関心層を対象とした商品造成の難しさ＞

・県の調査では、7 千人ほどが指導や鍛錬で県内各所の道場を訪れているというデータがある。ただ、そうした人たちは何もしなくても沖縄に来るという人。「空手の聖地沖縄」というブランドを確立できればそういう人だけでなく、沖縄に興味がなくても空手目的に来るという人や、ダイビングで来たが空手もしていこう、という人が増える。そうした幅広い層の獲得を空手ツーリズムの目的としている。

しかし、初級者や無関心層にスポットを当てた商品造成の難しさを感じる。「カラテ・ラテ」という空手と飲み物のラテを組み合わせた商品や、「守礼門で空手着を着て写真を撮る」などの商品も作ったが、旅行業者目線で作るとどうしても「空手」になってしまう。もう少しツーリズム寄りのものを作り、一般の人でも接点が増えるようにしたいと思っているのだが、「道場でしかできない」「空手会館でしかできない」など、ある程度空手に興味がある人でないと体験できない（しようと思わない）商品が多い。

無関心層やダイビングに来た人と空手をつなぐためのギャップを埋めたいのだが、それが難しい。

■販売面の課題

＜販売の課題が見えていないことが課題＞

・商品を作ることも大変であったが、2020 年 10 月から販売を開始し、これからというタイミングでコロナになってしまったため、販売しての課題が見えていない。

オリンピックで喜友名選手が金メダルをとったことで訪日客に対する潜在的なニーズ喚起はできていると推察しているが、それがどこまで販売数を押し上げるかという検証もできていない。

＜商品流通量の増加＞

・ツーリズムとして確立するには商品の流通量が必要。ある程度の数がないと購買者がその商品にアプローチできないためである。スポーツ庁の事業でコンソーシアムに入っているＪＴＢ沖縄、アゲシオジャパン、沖縄ツーリストなどが別の旅行会社に商品を売るなどして窓口を増やしていくことが理想だが、民間ビジネスのことなので当社としての介入は難しいこともあり、どのようにして商品を流通させていくかは課題。

■連携面の課題

＜道場の支援＞

・道場への情報発信は当社ではなく振興会の役割。ただ、道場が 300 以上あることに加え、競技空手と伝統空手の違いなど、流派の壁があることはツーリズムを推進していく上での課題である。当組織は直接道場と接することはないが、難しい面は大きい。

また、道場は経営が厳しい、後継者がいないなどの課題を抱えているためツーリズムを

通して貢献できればと考えているが、道場数が多いため個別支援は難しい。

【４．その他】

■取組みを通じて感じたこと
・沖縄県では県が空手振興課を作り、ビジョンを作り、そのためのロードマップを作りという形で、施策が複合的に絡んで空手ツーリズムが推進された。 他地域でも武道ツーリズムを推進するのであれば、まず地域の中で行政支援があったり武道を牽引する中心組織とＤＭＯやＤＭＣが絡むと比較的早く進むのではないかと考える。特定の武道施設に任せるだけでは難しい。
■国への要望
＜武道を身近に感じてもらうための施策＞ ・他武道を見ると、例えば相撲については「おすもうさん」という言葉や力士の絵も柔らかく親しみがあるなど、見た目がキャッチーなコンテンツも見られるが、そうしたものが空手にはない。造成した商品には、商品名に空手という文字がない座禅体験などもあるが、観光のひとつとしてもう少し気軽に体験できる商品が必要と考えている。 そうした中で可能性を感じるのは 1980 年代のカラテキッドという映画。観た人も多いと思う。著作権など権利関係の問題で難しいとは思うが、こうした映画とのタイアップができるとありがたい。 JNTO の動画の中でも「おすもうさん」が使ったりされるが、そのような、「いかにも日本らしい」ブランドイメージを作るためのプロモーションを国としてやってもらえるとありがたい。その手っ取り早いものが映画などになるのだろうが。

沖縄空手会館

【施設概要】

体験可能な武道	空手
所在地	沖縄県豊見城市字豊見城 854-1
ホームページ	https://karatekaikan.jp/
外国人受入実績	・併設の資料室に来館して音声ガイダンスを借りた外国人の人数は平成 30 年度で 3,000 人ほど。資料室に入るだけの人もいれば体験していく人もいる。

【特別道場　守禮之館】

【空手道場】

【鍛錬室】

【屋外鍛錬場】

【特別道場前広場】

【資料室】

【研修室】

【カフェ】

【ショップ】

【1. 沖縄空手会館について】

■開館

・2017 年 3 月

■沖縄空手における施設の位置づけ

・沖縄の歴史文化を学ぶ施設のひとつで、沖縄伝統空手の保存継承・普及啓発・振興発展に資するための施設。

■運営内容

・空手を保存継承していくための施設というポジションであるが、空手のためだけの施設とならないよう、現在は旅行会社の沖縄ツーリストが指定管理者となっている強みを生かし、下記の取り組みを行っている。

１．空手をしに沖縄に来た人の体験を豊かにするための手伝い
ホテルの紹介、飛行機の予約、レンタカーの手配、海軍施設の紹介をするなどの手伝いなど沖縄に来た人の動きをサポート

２．バリューデリバリー
オンラインで空手のヌンチャクなどの物品、沖縄ならではの物品、空手会館ならではの物品を販売。これまで海外 10 カ国への販売実績がある。
コロナでインバウンドの来館がないなかでもできることとして、世界に対して沖縄空手を知ってもらうための発信をしている。

３．空手のテーマパーク
いつ来館しても空手が見られるようにしている。空手会館というと、いつでも空手をしているというイメージを持たれがちであるが、貸し出し施設なので借りる人がいない時間は空手を観ることはできない。また、魅せるイベントがないとダメ。先生に来てもらおうとしても来客者が多くないと御礼もできない。そのためにも安定した来客者数を確保しようとしている。

・空手会館はインフラも整備されており、zoom を利用したオンライン配信で空手のレクチャーもできる。過去にはアセアンの 10 カ国の生徒 99 名がオンライン体験をしたこともある。また、施設内で空手をして背景を国際通りにするような映像もすることができる。

・なお、当館では特定の先生を紹介することはできない。問い合わせがあった場合には館内の空手案内センターにつないでいる。

【２．体験プログラムについて】

■外国人の受入開始時期
・2017 年の開館後まもなくより
■体験プログラムの内容
・当館であらかじめ作成したプログラムはあるが、有段者などレベルによって求めるものも異なるため、そうしたニーズに対応したカスタマイズも可能。 ・当館で行われる世界大会などの観るイベントが 2 ヶ月に 1 回くらいのペースであり、そうした大きな大会のスケジュールが決定したのち、空いている日に体験などができるようにしている。 先生が常駐しているわけではないため、体験は事前予約が必要。急に立ち寄った外国人から体験を希望されても即対応はできないため、その場合は館内の空手案内センターと相談の上で、翌日以降に先生を手配できる日を案内している。 ・3 か月前から予約を受け付けているが、要望は来館日の前できるだけ早く知りたい。 流派の希望も基本的には受け付けていないが、案内センターに相談して可能な限り希望に沿うようにしている。 ・料金は参加人数による。先生 1 名に支払う料金を参加人数で割るので人数が少ないほど価格は高くなる。
■参加者層
・インバウンドは団体での来館が多い。 ・個人の来館者は「空手には興味があるが、道場のことなどについてよく知らず、ここに来れば空手について何か知れる、観ることができるだろう」ということで来館するケースが多い。 そのため、空手についての知識が多くはない初心者層の比率が高い。詳しい人は民間道場に直接申し込むケースが多いとみられる。
■参加者に喜ばれること
・空手の神髄を教えてもらえること。 空手を通じて精神を鍛える、チームビルディングができたというような感想もあった。 そのため、こちらで提案するプログラムもまず座学からとなる。

【３．インバウンド等受入に当たっての課題】

■コミュニケーションについて

・対応言語は、英語、韓国、フランス、ロシア、ポルトガル、スペイン語、中国、等
参加者からのニーズとしては英語が最も多く、次にフランス語。

■トラブル

・これまでに外国人を受け入れる際のトラブルはない。

・空手着などのレンタル用品はあるのだが、コロナ以降、他人が着用したものを別の人に貸すことができないため、貸し出しを停止している。そのため、体験の場合は参加者自身に持参してもらう必要がある。

■今後の課題

＜いつでも体験できる体制づくり＞

・先述の通り、基本的には事前予約が必要。しかし、今後は予約なしで来館しても空手を見れたり、教えてもらうことができるようにしていきたい。そのためには、先生に常駐してもらったり、当施設で道場を開いてもらうことなどが必要となる。
伝統空手には無償で教えることが当たり前という考えがあるため、ビジネスとして先生に協力を依頼することは難しい面もあるのだが、バランスをとりながら体制を築いていきたい。

＜施設のプロモーション強化＞

・当施設の認知度が高いとは言えないため、プロモーションの強化が必要。「世界の歩き方」に掲載してもらうなど、海外へのアピール強化が必要である。

【４．その他】

■旅行会社などへの要望

・来館だけであれば、開館時間内はいつでも受入れ可。
ただ、体験する、あるいは施設の案内が必要な場合は言語を事前に教えてもらうことが必要となる。

Ageshio Japan（アゲシオジャパン）株式会社

【企業概要】

体験可能な武道	空手
所在地	沖縄県那覇市安里 3-1-13 下地ビル 3F
ホームページ	https://ageshiojapan.com/jp/
事業概要	・空手ツーリズム専門に扱っている旅行会社。沖縄で空手をしたいというツーリスト向けに、空手の稽古、聖地巡礼ツアー、沖縄の観光を混ぜるなどした外国人空手家向けのツーリズム商品を展開・販売している。 ・2017 年の会社設立からコロナ前までのおよそ 3 年で参加者数は 1,000 人前後。

道場稽古

沖縄空手合宿

沖縄空手　主流４流派体験

ビーチ空手

空手　体験レッスン

団体旅行向けプログラム

【1. 企業設立、外国人受入当初について】

■外国人の受入開始時期
・2017 年
■背景
・社長の上田氏が中国の上海で空手を教えていたのだが、その門下生であった COO の古田氏と 2 人が空手発祥地である沖縄に注目し、会社を立ち上げた。
■サービス開始にあたって苦労したこと
・最初の壁は旅行業免許がなかったこと。その取得に 6 ヶ月必要であったのでその間事業ができなかった。 ・次に、商品造成。空手の先生との人脈を作りながら提供する商品を検討していたが、これまでにないサービスであるため、どのような商品が売れるのか分からなかった。資金もないため、いろいろ試すことも難しかったので、県の観光補助金を活用して商品を造成した。活用した補助金は空手発祥地に空手ツーリズムを発展させるという趣旨のもの。沖縄県の観光課題として、人数は増えているが、滞在日数が短かかったり、単価が安いというものがある。ハワイと比べても観光人数では抜いたが、単価が断然安い。そうしたなかで沖縄に来た空手家は平均 11 日という長い日数滞在する。そのため、沖縄としても空手ツーリズムへの期待度は高かったようだ。 最後に苦労したのが集客。1 年間に沖縄に来る空手家は約 7,000 人いるが、ターゲットの母数としては少ない。それを増やすためにヨーロッパ中心に海外営業に 7 回程度行った。旅行博でチラシを配ったり、有名な先生のセミナーに同行して宣伝をしたり、さまざまな活動をした。ただ、欧米豪は地理的に遠いこともあり、実際に沖縄に来てもらうことについて非常に苦労した。

【2. 体験プログラムについて】

■体験プログラムの内容
＜申し込み方法＞ ・ＷＥＢホームページやメールからの申し込みと、道場の先生のからの紹介も多い。 ＷＥＢの申し込みは団体ではなく個人が多い。一方、先生からの紹介の場合は団体で来てくれる傾向にある。そのため、参加人数としては個人客よりも団体客の方が多い。 ＜商品について＞ ・空手に関するさまざまな商品を展開。 現状、最も人気が高いのは聖地巡礼ツアー。沖縄でしかできないことが理由。空手は様々な流派があるが、全てルーツは沖縄。そのため、聖地巡礼は沖縄ならではのサービスであり人気が高い。

ただ、これは売上や利益にはつながりづらい商品で、当社を利用してもらうためのフックとしての要素が大きい。ほかにもいろいろなプログラムがあるため大人数で来てもらいたいと思っており、特に合宿やセミナーという団体客の取り込みを強化している。そのなかに聖地巡礼や道場での稽古などを混ぜている。
申込数では聖地巡礼ツアーがヒット商品となるが、人数は合宿とセミナーによる押し上げが大きい。

・沖縄に来る人は沖縄だけで 1 週間程度の滞在し、そのほかに東京などで数日過ごすケースが多いとみられる。
沖縄滞在中、当社のプログラムに 4～5 日参加する場合は宿泊費込みで 10～15 万円程度となる。普通のツアーよりは高い料金設定であるが、これは協力してくれる先生に対して正当な額の御礼をしたいということと、相応の価値があり安売りする商品ではないという考えから。
参加者は 40 歳以上の人が多く、また遠方から来ているため、値段は高くても良い体験をしたいという人が多い。当社としてもそうした体験の提供を重視している。

【プログラム例（沖縄空手合宿）】

＜商品内容＞
・沖縄は空手発祥地としてだけでなく、プロスポーツのキャンプ地としても有名。
それは一年を通じて温暖な気候であることに加え、とても美しいビーチや島など、多くの魅力的なスポットがあるため。
当社は沖縄にある空手専門の旅行会社で、沖縄空手の著名な指導者や空手道場と良好なネットワークを築いているため、参加者の要望に応じた空手合宿のプランニングが可能。

＜3 つの魅力＞
1．「空手の発祥地」
沖縄は空手の発祥地。現在も約 400 の空手道場と多くの高段指導者が存在し、世界中の空手家が来沖する。合宿時に沖縄空手道場との交流や稽古参加も可能。
2．「スポーツキャンプの聖地」
沖縄はスポーツやアクティビティの島として有名。温暖な気候、多くのレストラン、観光名所、病院があるためで、それにより、多くのプロスポーツチームのキャンプが毎年ここで行われる。沖縄はスポーツキャンプ（合宿）にとても適した場所であり、聖地である空手に関してはより一層適している。
3．「年間を通じた温暖な気候と美しいビーチ」
南国リゾート地沖縄の年間平均気温は 23.6 度、2 月でも平均気温 16.9 度と、空手合

宿を行うには、最適の気候。白い砂浜とコバルトブルーの海は、日々の疲れを癒す。那覇近郊でも美しいビーチで稽古や海水浴が可能。

沖縄空手合宿

＜多様な稽古プログラム＞

■参加者層

・2017 年の設立からコロナ前までのおよそ 3 年で参加者数は 1,000 人前後。そのうち 7 割程度が外国人。
内訳としては欧米が多い。沖縄県空手振興課のデータによると、沖縄に来る空手家はアメリカ、オーストラリア、フランスの順。当社のプログラムに参加している空手家もそれに準じている。

・参加者の 9 割が経験者。母国で道場を開いている師範が弟子を連れてくる、もしくは、何年も稽古した人が個人で来るケースが多い。
レベルとしては初級者 3 割、中上級者が 7 割程度。

■当社が選ばれる理由

＜信頼性＞

・ホームページで会社の信頼性を伝えることを重視している。具体的にはトリップアドバイザーの口コミを当社ホームページで見てもらえるようにしている。2021 年 11 月時点で 38 件の口コミがあったが、37 件が満点の評価。そうした客観的な評価の高さを見てもらえるようにしている効果は大きい。

＜先生とのつながり＞

・外国人空手家は「高段者の先生に習いたい」、あるいは「特定の先生に習いたい」と希望してくる人が多い。当社 WEB サイトへの流入経緯を見ると、先生の名前で検索して入ってくるケースが多い。そのため、当社として県内の多くの先生とつながりがあり、また主要 4 流派全ての有力な先生から協力を取り付けている効果は大きい。その協力を取り付けられたポイントは上田社長の空手愛。商売のためだけに交渉に来ているのではなく、「空手を良くしたい」、「空手を正しく世界に広めたい」という思いを先生に伝え、理解してもらえたと考えている。

＜参加者のニーズに沿った商品提案＞

・上述の先生とのつながりから、当社では参加者のニーズに沿った商品の提案ができる。空手は多くの流派があるため、参加者の学んできた流派に合った道場を紹介したり、関係するツアーを組んでいる。そのためにも参加者の習ってきた空手がどの流派であるか分からなければ参加者と道場とのマッチングが成り立たないが、当社ではそれが可能。

■参加者に喜ばれること

＜感動体験＞

・参加者は、「自分の習ってきた空手のルーツを知れたこと」「沖縄に来なければ難しい高いレベルの先生に教えてもらったこと」に感動する。先生の技術は非常に高く、参加者のレベルより 2 ランクも上のようなレベルの内容となるため、「このようなことが可能な

のか」という感動がある。参加者のなかには感動のあまり涙を流す人もいる。
また、沖縄の先生たちは人を思いやる気持ちも高く、レベルの高い先生のそうした人間性に触れたことも含めて、さまざまな感動がある。

＜リピートについて＞
・最初は先生たちが数人で来て、2 度目以降はその先生が弟子を連れてくるケースが多い。最初に来る先生の「自分の習ってきた空手のルーツについて知りたい」という欲求を満たしたり、「突き」などの動きひとつひとつについてその動きの意味や理由を知ったりすることが満足度の高さにつながっている。

【３．課題】

■今後の課題

＜ターゲットの拡大＞
・インバウンドを対象として事業を展開しているが、ターゲットとなる人の母数が沖縄に空手をしに来る 7,000 人だけでは少ないため、ターゲットの拡大が課題。
当社プログラムへの参加者は欧米豪中心であるが、沖縄に来るインバウンド客は台湾、中国、韓国が 8 割。そうした国にも空手家はいるため、ターゲットをそちらにも広げるか、あるいは一般の旅行客にも喜ばれる商品の提案を増やすかという点を思案中。
ただ、どの地域にどれだけ武道に興味ある人がいるかというマーケティングはしっかりしたものはできておらず、あくまで感覚や平成 28 年度の沖縄県の調査などを基にしているため、そうした潜在ニーズ把握につながる調査結果があれば非常に有用。

＜ライト層の取り込み＞
・先述の通り、これまでの参加者は中上級者が中心。ライト層の取り込みは難しいのだが、そこを教育旅行（修学旅行）と社員旅行で狙いたい。観光地巡りや飲食など他の楽しみで来る空手未経験者に空手を訴求することは難しい。ただ、修学旅行については楽しむだけでなく学びの機会でもあるため、そのコンテンツの一部として空手がフィットする可能性はある。
沖縄への修学旅行はコロナ前で年間 2,500 件、社員旅行が 1,800 件もあったため、そうした意味でもポテンシャルは大きい。しかし、修学旅行は大手企業が強くて当社のような小規模の会社がマーケットに入り込むことは難しく、その点が課題である。

＜人材面の課題＞
・当社には旅行業に精通している人が少ない。またそのこともあり大手旅行会社との連携面が弱い。これまで大手の旅行会社と連携した際に面白い企画が作れた。例えばスポーツ庁の事業でオンライン空手体験も行ったが、これも会員組織を持っている企業と連携

できたからこそである。
また、ＪＴＢとの連携で社員研修旅行のなかで空手体験をするという企画をしたところ好評であった。オフィスの様子と空手の修業時で全く違う人も多かったようで、社員の中で話が盛り上がっていた。
こうした面白い企画をするためにも大手旅行社の持っている強みをミックスさせることで、より良いものができるため、そうした企業との連携のためにも旅行に精通した人材が欲しい。

【４．提案・要望】

■国への要望・提案

＜道場が長年にわたり続く取り組み＞

・沖縄県内に空手道場はおよそ 400 あるが、毎年 10 か所ほどの閉鎖が続いている。これは長年続いてきた伝統や技術の消失となるため、道場を守っていく取組をしてもらいたい。また、世界の各地で苦労しながら空手普及に貢献した先生たちは多い。そうした先生たちが評価されるようになってもらいたい。

＜情報共有＞

・武道ツーリズムは国が 2018 年に戦略を出して、2020 年から予算を付けての委託事業が始まった。まだ始まったばかりだからこそ、事業を通して得た情報を共有し、次年度以降の事業についてブラッシュアップを図っていくことが必要と考える。

＜対象者の定義を細分化＞

・これまでは空手家について「コア層」か「ライト層」の 2 択で語られることが多かった。武道は専門性が高いためライト層にコンテンツを落とし込むにはハードルが高い。コアとライトの中間を埋める層を設定しても良いのではないか。
例えば、海外の武道愛好家は空手だけ、柔道だけという人は少なくていろいろな武道をしている人が多いので「空手家」というよりも「武道家」という括りで、他武道も経験する「コアライト層」というターゲットを設けても良いのではないか。